

平成 19（2007）年度  
学生による授業アンケート実施報告書

吉 備 国 際 大 学

平成 19 年度自己点検・自己評価委員会  
教育指導部会

委員長	小田淳子	
委員	社会学部	井上理恵, 安藤耕己, 小原信幸
	保健科学部	掛谷益子, 中島正明, 松田勇
	社会福祉学部	黒宮亜希子, 藤原幸子, 田中禮子
	政策マネジメント学部	内藤智秋, 小田淳子
	心理学部	津川秀夫
	文化財学部	高木秀明
事務局	井上秀二	

※アンケート項目の作成：津川秀夫・星野真弓・吉村宣彦

※報告書のとりまとめ：津川秀夫・大塚道子・妹尾靖晃

## 目次

I. 授業アンケートをめぐって	1
1. 学生による授業アンケート	1
2. 本学における授業アンケート	1
3. 授業アンケートの改善に向けて	2
4. 2007年度の授業アンケート実施の流れ	2
5. 授業アンケートの作成	3
6. フィードバック資料の作成	6
II. 2007年度授業アンケート	8
1. 実施科目の選定	9
2. 授業アンケート実施	10
III. 授業アンケート結果	12
1. 全体の結果	12
全学の結果／学部による比較／学年による比較／学生の性別による比較／科目分類による比較／受講者数による比較	
2. 学科の結果	21
国際社会学科／ビジネスコミュニケーション学科／文化財修復国際協力学科（社会学部）／スポーツ社会学科／看護学科／理学療法学科／作業療法学科／社会福祉学科／健康スポーツ福祉学科／精神保健福祉学科／子ども福祉学科／臨床心理学科（社会福祉学部）／福祉ボランティア学科／知的財産マネジメント学科／環境リスクマネジメント学科／臨床心理学科（心理学部）／文化財修復国際協力学科（文化財学部）	
IV. 考察	56
1. 授業アンケートの結果	56
2. 2007年度の授業アンケートの成果と今後の課題	58

### 引用文献

### 資料

1. EST 実施マニュアル
2. EST 実施要綱

## I. 授業アンケートをめぐって

### 1. 学生による授業アンケート

文部科学省（1998）は、自己点検・評価の充実を図るとともに大学の個性を伸ばし、教育研究の内容・方法の改善につなげるために第三者評価システムの導入が必要であると提案した。1999年には、個々の教員の授業内容・方法の改善のための組織的な取り組みである Faculty Development（以下 FD）の努力義務が大学設置基準に設けられた（文部省，2006）。

FD活動において大きな位置を占めるのが、学生による授業評価である。授業アンケートは、授業担当教員の自己点検・評価に資することを目的として実施される。文部科学省（1998）は、「教育の質の向上のため、自己点検・評価や学生による授業評価の実施など様々な機会を通じて、継続的に大学の組織的な教育活動に対する評価および教員の研究活動に対する評価の両面から評価をおこなうことが重要である」と述べている。

学生による授業アンケートは、1992年度には国公立全体で38大学（5%）だけでの実施であったが、2004年度には691大学（約97%）において実施されている（文部科学省，2006）。

### 2. 本学における授業アンケート

本学の授業アンケートは、自己点検・自己評価委員会によって1998年に社会学部で試行されたのを始めとして毎年実施されてきた。2000年には社会学部，2001年には保健科学部，2002年には社会福祉学部において試験的に実施された。2004年には全学部実施に向け、前期に保健科学部，後期に社会福祉学部で実施され，2005年には後期に社会学部，政策マネジメント学部で実施された（Table 1.1）。

Table 1.1 本学において授業評価実施状況

実施年度	時期	社会学部	保健科学部	社会福祉学部	政策マネジメント学部
2000	後期	○(131)			——
2001	後期		○(85)		——
2002	後期			○(256)	——
2003	後期	○(151)			——
2004	前期		○(113)		
	後期			○(248)	
2005	後期	○(153)			○(59)

( )内は実施講義数

### 3. 授業アンケートの改善に向けて

本学における授業アンケートに対して、大学基準協会（2005）は「1998（平成10）年以降試行的に学生による授業評価が実施され、2003（平成15）年度に『学生による授業評価報告書』が出されているが、各学部が毎年実施していないし、対象科目は後期開講科目だけである。また、公表についても限られており、現場へのフィードバックが必ずしも十分でないように思われる（助言）」と指摘した。すなわち、①全ての学部が毎年実施していない、②対象科目が限定されている、③公表が限定されている、④現場へのフィードバックが不十分である、の4点を改善することが求められている。

これを受けて、2006年度の自己点検・自己評価委員会教育指導部会では、授業評価の実施方法や尺度作成について検討をはじめた。

「①全ての学部が毎年実施していない」という指摘を受けて、2006年度より全学において授業アンケートが実施されるようになった。

「②対象科目が限定されている」点については、前期・後期の2回において実施されることが望ましいと委員会においても確認された。ただし、実施からフィードバックまでの流れが整っていないため、2007年度には前期のみに実施し、実施システムの確立を目指すことになった。

「③公表が限定されている」点については、アンケート結果を印刷製本し、関係機関に送付するだけでなく、WEB上でPDFを用いて公表することになった。

「④現場へのフィードバックが不十分である」という指摘を受けて、授業改善に役立てやすいフィードバック資料を教員に提供していくことになった。2006年度中に、専門や領域が異なっても使用でき、妥当性や信頼性を備えた新たな尺度を作成し、2007年度以降の授業アンケートからその新尺度を用いていくことになった。

### 4. 2007年度の授業アンケート実施の流れ

2006年10月から、新たな授業アンケート（授業評価尺度 Evaluation Scale of Teaching : EST）の作成がはじまり、12月上旬に臨床心理学科を対象に実施された。2007年6月1日のFD説明会においてESTの説明がおこなわれ、6月20日の教授会においてESTの採用が決定された。6月下旬に対象科目の選定がおこなわれた。7月上旬に授業アンケートが実施された。

2007年度における授業アンケート実施の流れをTable 1.2を示す。

Table 1.2 授業アンケート実施の流れ

2006年度	10月下旬	EST作成開始
	12月上旬	臨床心理学科を対象としてESTを試行
2007年度	6月1日	FD説明会
	6月20日	教授会（ESTの採用決定）
	6月下旬	EST対象科目の選定
	7月上旬	EST実施
	8月下旬	結果の処理およびフィードバック資料の作成
	11月中旬	フィードバック資料の配布

## 5. 授業アンケートの作成<sup>1)</sup>

### 目的

2005年度までの授業アンケートを検討すると、尺度の概念構成が不確かであり、質問項目が「伝え方」を問うものだけに偏っているなどの問題点があった。そこで、これらの問題を改善し、講義形態の授業であれば専門や領域が異なっても共通して使用できる新たな尺度（Evaluation Scale of Teaching：EST）を作成することを目的とした。

### 対象科目

臨床心理学科の専門教育科目 28 科目を対象とした。そのうち、受講者が 50 名以上である 9 科目を分析の対象とした。1 科目あたりの平均受講者は 58 名（平均年齢 20.08 歳,  $SD = 1.37$ ）であった。

### 調査時期

2006 年 12 月上旬から中旬に実施した。

### 尺度の作成

#### 1) 尺度の構成

授業は学生と教員の相互作用で成り立っていると考えられる。そのため、授業評価は「I. 学生側の要因」「II. 教員側の要因」という視点から捉えられる必要がある。なお、「II. 教員側の要因」は、声の大きさや板書のみやすさなどの「伝え方」と、そこで何が伝えられたかという「授業内容」の 2 つに分類されると考えられる。そこで、EST は「I. 学生側の要因」として受講態度を、「II. 教員側の要因」としては授業内容、教員の取り組みを設けた。すなわち、EST は〈①受講態度〉〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉の 4 カテゴリーにおいて、学生の評価を求める尺度である。

#### 2) 質問項目の作成

授業評価に関する質問項目を以下の手続きにより作成した。

1996 年から 2006 年までの「心理学研究」「教育心理学研究」「日本心理学会大会発表論文集」「日本教育心理学会総会発表論文集」に掲載された授業評価に関する研究 10 本とその先行研究 15 本、計 25 本を選定し、704 項目の授業評価に関する項目を抜き出した。続いて、全国の大学および大学院 27 校で用いられている授業評価から 428 項目を収集した。そして、学習動機付けに関する研究成果を踏まえて課題価値評定尺度（伊田，2001）より 30 項目を得た。これらの項目を評定者 6 名が 4 カテゴリーに分類した。そして 4 カテゴリーごとに KJ 法をおこない、①受講態度 3 項目、②授業内容 6 項目、③教員の取り組み 12 項目、④総合評価 1 項目の合計 22 項目を抽出した。

1) この節の要旨は、星野・吉村・津川（2007）により日本心理学会第 71 回大会において発表された。

項目作成の留意点として、幅広い授業で用いられるように「講義」ではなく「授業」という言葉を用いた。質問項目における主体を明らかにするために、文頭を「私は・・・」「授業で学んだ内容は・・・」「教員は・・・」とした。また、多義語の使用を避け、文末を肯定文に統一した。回答方法は、各項目に対して「よくあてはまる (5)」から「全くあてはまらない (1)」までの 5 件法とした。作成した授業アンケートを Table 1.4 に示す。

### 処理の手続き

「II. 教員側の要因」である〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉の 18 項目を分析の対象とした。授業によっては、受講者が重複していることもあるため、授業ごとに因子分析をおこなった。抽出法は主因子法・最尤法を、回転法は promax 回転・varimax 回転を採用し、各授業でどのような因子構造が確認されるか、それぞれを組み合わせで 4 通りの因子分析をおこなった。

なお、〈①受講態度〉〈④総合評価〉は、多くの授業評価で取り入れられ、概念的に妥当であると考えられるため、分析から除外した。

### 結果

因子分析より、「II. 教員側の要因」は〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉の 2 因子構造であることが各授業において示された。因子分析の結果の一例を Table 1.3 に示す。

以上から、概念的検討により得られた 2 つのカテゴリーが統計的にも妥当であることが確認された。

Table 1.3 授業 H における因子分析結果

	第1因子	第2因子
<b>第1因子：教員の取り組み (<math>\alpha=0.89</math>)</b>		
17. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた	<b>0.859</b>	-0.215
10. 教員は授業に対して熱意や意欲があった	<b>0.744</b>	0.071
18. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた	<b>0.722</b>	-0.169
13. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた	<b>0.673</b>	0.214
11. 教員はよく準備された授業をおこなっていた	<b>0.649</b>	0.164
14. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた	<b>0.637</b>	0.102
21. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた	<b>0.629</b>	0.048
16. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた	<b>0.620</b>	0.108
12. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた	<b>0.533</b>	0.077
19. 教員は適切に課題を出していた	<b>0.506</b>	-0.197
20. 教員は授業時間を守っていた	<b>0.446</b>	0.249
15. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた	<b>0.439</b>	-0.019
<b>第2因子：授業内容 (<math>\alpha=0.85</math>)</b>		
8. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた	-0.407	<b>1.035</b>
7. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった	-0.082	<b>0.759</b>
9. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった	0.002	<b>0.666</b>
6. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった	0.293	<b>0.610</b>
5. 授業で学んだ内容は興味や関心をもてるものだった	0.265	<b>0.533</b>
4. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった	0.189	<b>0.489</b>

Table 1.4 授業評価尺度 (EST)

授業アンケート							
<p>このアンケートは、学生がこの授業をどのように感じているかを知り、今後の授業を充実・改善させることを目的として実施するものです。以下の設問に対して、よくあてはまる「5」～ 全くあてはまらない「1」のなかから該当する数字にマークしてください。</p>							
コード	科目名						
性別	① 男	② 女	区分	① 一般	② 留学生		
学年	① 1年	② 2年	③ 3年	④ 4年			
<p><b>注意事項</b></p> <p>用紙は破損したり折り曲げたりしないでください。                  鉛筆はHBまたはBを使用してください。                  以下のようにマークしてください。                  消すときは消しゴムで完全に消してください。</p> <p>例) 良いマーク ●      悪いマーク ✕ ○</p>							
学部	① 社会	② 保健科学	③ 社会福祉	④ 政策マネ	⑤ 心理	⑥ 文化財	
学科	① 国際社会	① 看護	① 社会福祉	⑤ 福祉ボランティア	① 知的財産	① 臨床心理	① 文化財
	② ビジ・コミ	② 理学療法	② 健康スポーツ	⑥ 子ども福祉	② 環境リスク		
	③ 文化財	③ 作業療法	③ 精神保健				
	④ スポーツ社会	④ 臨床心理					
<p>5.      4.      3.      2.      1.                  よくあてはまる      ややあてはまる      どちらでもない      あまりあてはまらない      全くあてはまらない</p>							
<p><b>I.&lt;受講態度に関する評価&gt;</b></p> <p>1. 私は、授業によく出席していた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>2. 私は、授業に積極的な態度で取り組んだ      ⑤—④—③—②—①</p> <p>3. 私は、予習・復習などの自主的な学習をした      ⑤—④—③—②—①</p>							
<p><b>II.&lt;授業内容への評価&gt;</b></p> <p>1. 授業で学んだ内容は、専門性の高いものだった      ⑤—④—③—②—①</p> <p>2. 授業で学んだ内容は、興味や関心ももてるものだった      ⑤—④—③—②—①</p> <p>3. 授業で学んだ内容は、自分を成長させるものだった      ⑤—④—③—②—①</p> <p>4. 授業で学んだ内容は、就職や進学に役立つものだった      ⑤—④—③—②—①</p> <p>5. 授業で学んだ内容は、将来仕事をする上で役立つものだと感じた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>6. 授業で学んだ内容は、他者に誇れるものだった      ⑤—④—③—②—①</p> <p><b>&lt;教員の取り組みへの評価&gt;</b></p> <p>7. 教員は、授業に対して熱意や意欲があった      ⑤—④—③—②—①</p> <p>8. 教員は、よく準備された授業をおこなっていた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>9. 教員は、この科目を担当するに値する経験や知識をもっていた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>10. 教員は、授業内容をわかりやすく説明していた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>11. 教員は、聞き取りやすい話し方をしていた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>12. 教員は、教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>13. 教員は、学生の理解に合わせた授業をしていた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>14. 教員は、学生の反応や意見を活かした授業をしていた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>15. 教員は、授業を受けやすい環境をつくっていた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>16. 教員は、適切に課題を出していた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>17. 教員は、授業時間を守っていた      ⑤—④—③—②—①</p> <p>18. 教員は、授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた      ⑤—④—③—②—①</p>							
<p><b>III.&lt;総合評価&gt;</b></p> <p>総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する      ⑤—④—③—②—①</p>							
授業評価尺度 EST (Evaluation Scale of Teaching)      著: 則川秀夫・星野良弓・大塚道子・吉村宜彦・鎌尾誠晃							



## 6. フィードバック資料の作成

### 目的

本学の授業アンケートのフィードバックに関して、大学基準協会（2005）から「現場へのフィードバックが不十分である」と指摘を受けている。たしかに、これまでのフィードバック資料は、項目ごとの平均と人数分布の記載のみであり、授業の改善点がわかりにくいものであった。そこで、フィードバック資料の書式を変更し、対象科目と全学・学科の平均の比較がおこなえるものを作成することを目的とした。

### フィードバック資料の作成

担当科目と学科・全学の平均を比較できるように、フィードバック資料を作成した。まず、各カテゴリーの評価を明らかにするため、全学・学科・対象科目の平均、標準偏差を算出し、表を作成した。また、カテゴリーの配点の差をなくし評価の差を理解しやすくするために、平均を100点換算したものを記載した。

次に、項目ごとに学科・対象科目の平均をプロフィール形式で提示し、授業の改善点を具体的に捉えやすくした。フィードバック資料の例を Table 1.5 に示す。

### フィードバック資料の見方

Table 1.5 を例として、フィードバック資料の見方を以下に説明する。

カテゴリーの100点換算値は70点以上であり、概ね高い評価を得ていた。この科目の評価は〈④総合評価〉は高いが、〈①受講態度〉が低く、学科と同様の傾向がみられた。学科の平均と比較すると、〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉〈②授業内容〉が低かった。

項目の評価を見ると、「I-3」を除く全ての項目において、平均3点以上であり概ね高い評価を得ていた。学科の平均と比較すると、この科目は、特に「II-10」「II-11」において高い評価を得ていた。「II-4」「II-16」は、低い評価を得ていた。このことから、この授業は、わかりやすく、聞き取りやすい授業であるが、就職や進学との関連性がわかりづらく、課題の量も適切でないと学生から評価されていることがわかる。

Table 1.5 フィードバック資料

科目名 〇〇学 担当者 吉備国 太郎 履修者数 119人 回答者数 81人 対象学科 □〇△

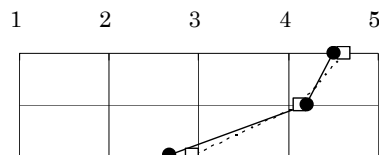
**得点の比較**

カテゴリー	配点	科目	平均	(SD)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学平均	11.36	(2.19)	75.8
		学科平均	11.63	(2.19)	77.6
		〇〇学	11.34	(2.14)	75.6
II 授業内容	(30点)	全学平均	23.22	(5.03)	77.4
		学科平均	22.90	(5.42)	76.3
		〇〇学	22.81	(3.61)	76.0
教員の取り組み	(60点)	全学平均	47.08	(9.69)	78.5
		学科平均	45.10	(11.24)	75.2
		〇〇学	46.49	(5.80)	77.5
III 総合評価	(5点)	全学平均	4.02	(0.98)	80.3
		学科平均	3.61	(1.42)	72.2
		〇〇学	3.92	(0.62)	78.4

**項目ごとの平均得点**

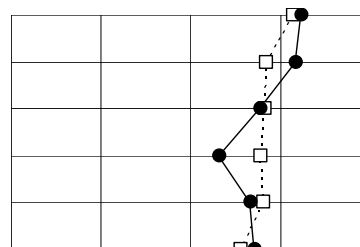
I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



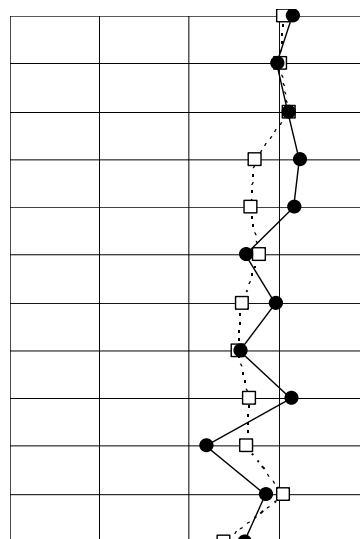
II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心をもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



<教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



## Ⅱ. 2007 年度授業アンケート

### 1. 実施科目の選定

#### 目的

EST は、専門や領域に関わらず講義形式の授業に実施できるのが特徴である。しかし、ひとつの授業に複数の担当教員が関与している場合は、評価対象が不明確になるため、実施することはできない。ここでは、EST の実施に先立ち、授業の担当教員の人数と授業形態を調べた。

#### 対象

2007 年度前期におこなわれた授業のうち、回答の得られた 734 科目を対象とした。

#### 実施時期

2007 年 6 月 25 日（月）～7 月 2 日（月）に実施した。

#### 質問紙

質問項目は、①担当教員の人数、②授業形態についてであった。①担当教員の人数は「1. 1 名」「2. 2 名以上」、②授業形態は「1. 講義形態」「2. 演習形態」「3. 実習形態」のなかから 1 つずつ選択する形にした。②授業形態は、科目名にかかわらず、教員による講義が授業時間の半分以上である科目は「1. 講義形態」を選択するように注意を加えた。調査用紙を Table 2.1 に示す。

#### 手続き

教務課より、実施科目選定の調査用紙が各教員に配布された。学科ごとに自己点検・自己評価委員会教育指導部会の委員が回収し教務課に提出した。提出されたアンケートから実施科目を選出した。

実施科目は、担当教員が 1 名であり、授業形態が講義形態である科目とした。

#### 結果

実施科目として、522 科目が選定された。

Table 2.1 実施科目の選定のための調査用紙

教員名:○○○○

1. それぞれの科目について「記入上の注意」をよく読み、当てはまる数字に○をつけてください。

**記入上の注意**

○授業形態については、科目名に関係なく、**該当する数字**を選んでください。  
 例えば、「○○演習」という科目の場合、講義が授業時間の半分以上であれば「1」、半以下であれば「2」を選んでください。

○授業形式

1. 講義形態 : 教員による講義が授業時間の半分以上  
 2. 演習形態 : 学生による発表・討議が授業時間の半分以上

科目名	学科	担当教員	授業形態
		1. 1名	1. 講義形態
		2. 2名以上	2. 演習形態
		3. 実習形態	
		1. 1名	1. 講義形態
		2. 2名以上	2. 演習形態
			3. 実習形態

## 2. 2007 年度授業アンケート実施

## 対象

選定された 522 科目のうち、482 科目に授業アンケートを実施した。EST の回収率は、社会学部 86.6% (142 科目中 123 科目)、保健科学部 96.8% (95 科目中 92 科目)、社会福祉学部 90.4% (228 科目中 206 科目)、政策マネジメント学部 95.1% (81 科目中 77 科目)、心理学部 88.2% (17 科目中 15 科目)、文化財学部 86.7% (15 科目中 13 科目)、全学は 92.3% (522 科目中 482 科目) であった。科目数の詳細を各学部、科目分類ごとに Table 2.2 に示す。なお、社会学部は、総合選択科目を基礎科目とした。

また、延べ受講者数は、社会学部 3716 名 (男性 2787 名、女性 929 名)、保健科学部 4079 名 (男性 1098 名、女性 2981 名)、社会福祉学部 7485 名 (男性 4849 名、女性 2636 名)、政策マネジメント学部 640 名 (男性 555 名、女性 85 名)、心理学部 282 名 (男性 149 名、女性 133 名)、文化財学部 206 名 (男性 102 名、女性 104 名)、計 16408 名 (男性 9540 名、女性 6868 名) であった。受講者数の詳細を学部、学年ごとに Table 2.3 に示す。

Table 2.2 各学部の科目分類ごとの科目数

	語学科目	基礎科目	専門科目	教職科目	計
社会学部	21	6	77	19	123
保健科学部	10	11	64	7	92
社会福祉学部	40	32	121	13	206
政策マネジメント学部	8	14	48	7	77
心理学部	3	7	5	0	15
文化財学部	0	7	5	1	13
計	82	77	320	47	526

\*重複科目があるため、総科目数は対象科目数と異なる

Table 2.3 各学部の学年ごとの延べ受講者数

	1年生		2年生		3年生以上		計
	男	女	男	女	男	女	
社会学部	657	158	946	496	1184	275	3716
保健科学部	390	830	336	1117	372	1034	4079
社会福祉学部	929	727	2162	904	1758	1005	7485
政策マネジメント学部	154	22	192	36	209	27	640
心理学部	149	133	—	—	—	—	282
文化財学部	102	104	—	—	—	—	206
計	4355		6189		5864		16408

### 実施時期

2007 年 7 月 9 日（月）～7 月 24 日（水）に実施した。

### アンケート尺度

授業評価尺度（EST）を用いた（Table 1.3）。

### 手続き

教務課より、各教員のメールボックスに EST が配布された。教員は、学生に EST の実施を依頼し、教室を退席した。依頼された学生は、実施要綱（資料 p.4）を参考に EST を実施し、その場で回収した。回収後、学生は EST を指定の場所に提出した。

### 処理の手続き

EST のカテゴリーごとに全学、学部、学科の平均と標準偏差を算出した。また、カテゴリーごとに平均値を 100 点換算した。100 点換算は、カテゴリーごとの得点の違いをなくし、評価の差を理解しやすくするためにおこなった。さらに、学生の学年・性別による比較や科目分類（語学、基礎、専門、教職）による比較をおこなうため、それぞれの平均・標準偏差・100 点換算値を算出した。また、受講者数が 1～20 人、21～50 人、51～80 人、81 人以上の 4 群にわけて、それぞれの平均・標準偏差・100 点換算値を算出した。

通常の質問紙の分析手続きでは、複数の群の比較をおこなうときには平均値の差の検定をおこなうのが一般的である。しかし、対象者の重複が明らかでない場合には統計的に正確な結果を得ることができない。今回おこなわれた授業アンケートは、受講者の重複が明らかでないため平均値の差の検定はおこなっていない。

### Ⅲ. 授業アンケート結果

#### 1. 全体の結果

##### 1.1. 全学の結果

###### 対象

選定された 522 科目のうち、482 科目に授業アンケートを実施した。

###### 処理の手続き

EST のカテゴリーごとに全学の平均と標準偏差を求めた。さらに、カテゴリーごとに平均値を 100 点換算した。

###### 結果

全学における、平均と標準偏差をカテゴリーごとに Table 3.1 に示す。また、100 点換算値をカテゴリーごとに Fig. 3.1 に示す。

Table 3.1 全学の平均と標準偏差

		①受講態度 (15点)	②授業内容 (30点)	③教員の 取り組み (60点)	④総合評価 (5点)
全体	平均	11.36	23.22	47.07	4.02
	(標準偏差)	(2.19)	(5.02)	(9.73)	(0.98)

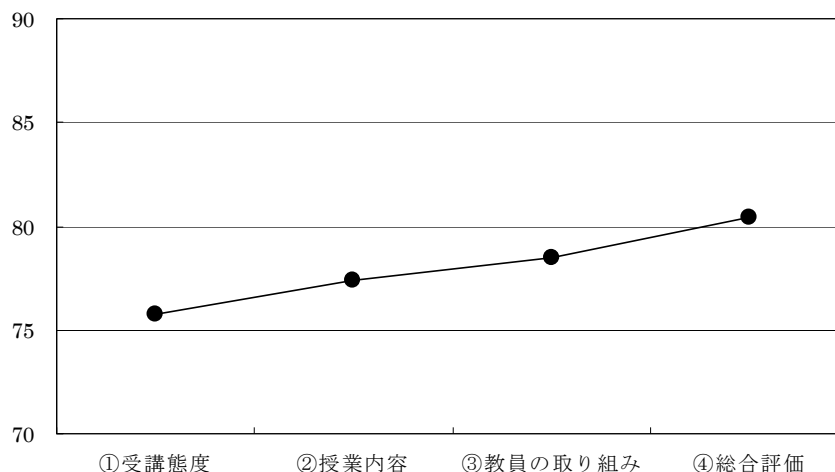


Fig. 3.1 全学の 100 点換算値

全学の 100 点換算値は 75～85 点の範囲であり、概ね良い評価を得ていた。全学の評価は〈④総合評価〉〈③教員の取り組み〉〈②授業内容〉〈①受講態度〉の順に高かった。

## 1.2. 学部による比較

### 対象

社会学部，保健科学部，社会福祉学部，政策マネジメント学部，心理学部，文化財学部の6学部を対象とした。それぞれの学部の科目数は，社会学部 124 科目，保健科学部 89 科目，社会福祉学部 209 科目，政策マネジメント学部 79 科目，心理学部 16 科目，文化財学部 13 科目であった。このうち，心理学部と文化財学部は 2007 年度開設のため，在生は 1 年生のみである。

### 処理の手続き

EST のカテゴリーごとに各学部と全学の平均と標準偏差を求めた。さらに，カテゴリーごとに平均値を 100 点換算した。

なお，通常の質問紙の分析手続きでは，複数の群の比較をおこなうときには平均値の差の検定をおこなうのが一般的である。しかし，対象者の重複が明らかでない場合には統計的に正確な結果を得ることができない。今回おこなわれた授業アンケートは，受講者の重複の状況が明らかでないため平均値の差の検定はおこなっていない。

### 結果

各学部における，平均と標準偏差をカテゴリーごとに Table 3.2 に示す。また，100 点換算値をカテゴリーごとに Fig. 3.2 に示す。

Table 3.2 各学部の平均と標準偏差

学部		①受講態度 (15点)	②授業内容 (30点)	③教員の 取り組み (60点)	④総合評価 (5点)
社会	平均	11.55	23.06	47.25	4.02
	(標準偏差)	(2.30)	(5.26)	(10.39)	(1.04)
保健科	平均	11.87	25.05	49.49	4.21
	(標準偏差)	(1.85)	(4.54)	(8.85)	(0.91)
社会福祉	平均	11.01	22.28	45.40	3.89
	(標準偏差)	(2.22)	(4.92)	(9.70)	(0.99)
政策マネ	平均	11.21	23.66	48.73	4.15
	(標準偏差)	(2.32)	(4.48)	(8.53)	(0.89)
文化財	平均	11.79	22.59	47.94	4.03
	(標準偏差)	(2.00)	(4.98)	(8.26)	(1.13)
心理	平均	11.04	23.44	50.14	4.26
	(標準偏差)	(2.39)	(4.60)	(7.84)	(0.87)



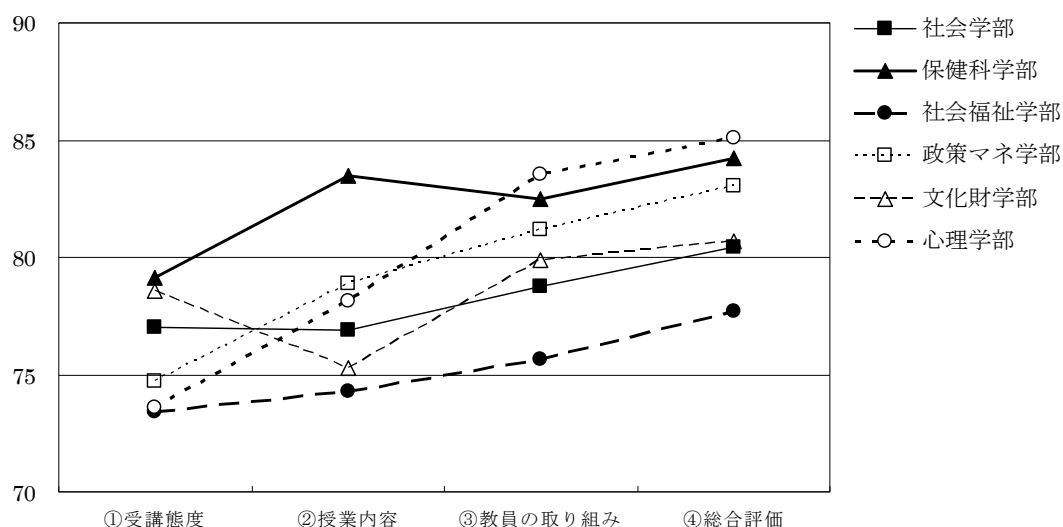


Fig. 3.2 各学部の 100 点換算値

### 1) 社会学部

社会学部の 100 点換算値は 75～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。社会学部は、〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学部と比較すると、社会学部は、全カテゴリーにおいて中程度であった。

### 2) 保健科学部

保健科学部の 100 点換算値は 75～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。保健科学部は、〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学部と比較すると、保健科学部は全カテゴリーにおいて高かった。特に、〈②授業内容〉は、他学部との差が最も大きかった。

### 3) 社会福祉学部

社会福祉学部の 100 点換算値は 70～80 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。社会福祉学部は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学部と比較すると、社会福祉学部は全カテゴリーにおいて低かった。

### 4) 政策マネジメント学部

政策マネジメント学部の 100 点換算値は 70～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。政策マネジメント学部は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学部と比較すると、政策マネジメント学部は〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉は高いが、〈①受講態度〉は低かった。

### 5) 心理学部

心理学部の 100 点換算値は 70～90 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。心理学部

は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学部と比較すると、心理学部は〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉が高いが、〈①受講態度〉は低かった

#### 6) 文化財学部

文化財学部の 100 点換算値は 75～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていることがわかる。文化財学部は〈④総合評価〉が高く、〈②授業内容〉は低かった。他学部と比較すると、文化財学部は〈①受講態度〉は高いが、〈②授業内容〉は低かった。

### 1.3. 学年による比較

#### 対象

各学年の延べ回答人数は、1 年生 4355 名、2 年生 6189 名、3 年生以上 5864 名であった。

#### 処理の手続き

学年による群分けをおこない、EST のカテゴリーごとに平均と標準偏差を求めた。さらに、カテゴリーごとに平均値を 100 点換算した。

#### 結果

学年別における平均と標準偏差をカテゴリーごとに Table 3.3 に示す。また、100 点換算値をカテゴリーごとに Fig. 3.3 に示す。

Table 3.3 各学年の平均と標準偏差

学年		①受講態度	②授業内容	③教員の 取り組み	④総合評価
		(15点)	(30点)	(60点)	(5点)
1年生	平均	11.71	23.43	47.61	4.06
	(標準偏差)	(2.13)	(5.06)	(9.74)	(1.00)
2年生	平均	11.32	22.99	45.66	3.89
	(標準偏差)	(2.14)	(5.03)	(9.98)	(1.02)
3年生以上	平均	11.16	23.30	48.16	4.11
	(標準偏差)	(2.26)	(4.96)	(9.25)	(0.93)

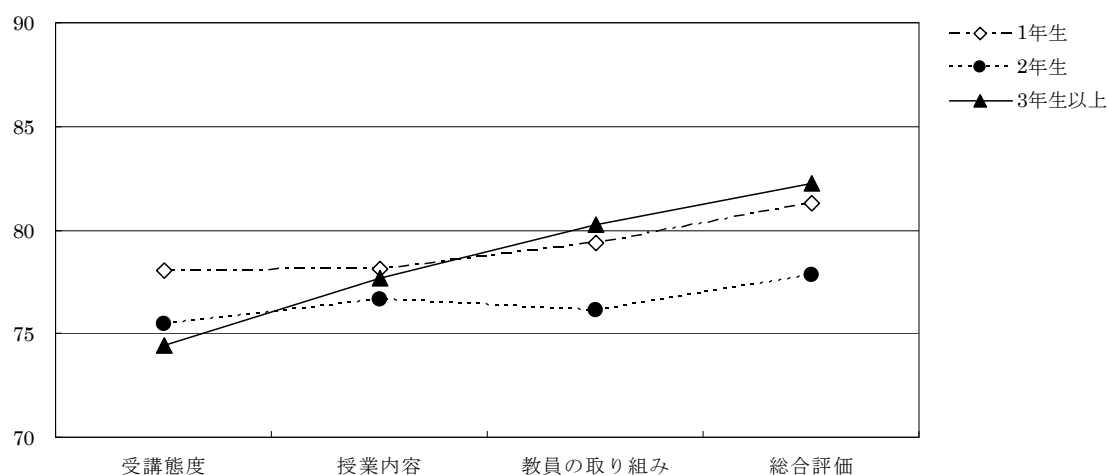


Fig. 3.3 各学年の100点換算値

### 1) 1年生

1年生における100点換算値は75～85点の範囲であり、概ね高い評価をしていた。1年生は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学年と比較すると、1年生は〈①受講態度〉〈②授業内容〉についての評価が高かった。

### 2) 2年生

2年生における100点換算値は75～80点の範囲であり、概ね高い評価をしていた。2年生は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学年と比較すると、2年生は〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉が低かった。

### 3) 3年生以上

3年生以上における100点換算値は70～85点の範囲であり、概ね高い評価をしていた。3年生以上は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他学年と比較すると、3年生以上は〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉は高いが、〈①受講態度〉は低かった。

## 1.4. 学生の性別による比較

### 対象

対象の延べ人数は、男 9540 名、女 6868 名であった。

### 処理の手続き

性別ごとに、EST のカテゴリーごとに平均と標準偏差を求めた。さらに、カテゴリーごとに平均値を100点換算した。

### 結果

学生の性別の平均と標準偏差をカテゴリーごとに Table 3.4 に示す。また、100点換算値をカテゴリーごとに Fig. 3.4 に示す。

Table 3.4 性別の平均と標準偏差

性別		①受講態度 (15点)	②授業内容 (30点)	③教員の 取り組み (60点)	④総合評価 (5点)
男子	平均	11.27	22.88	46.63	3.99
	(標準偏差)	(2.33)	(5.14)	(10.02)	(1.02)
女子	平均	11.49	23.69	47.70	4.05
	(標準偏差)	(1.97)	(4.80)	(9.27)	(0.94)

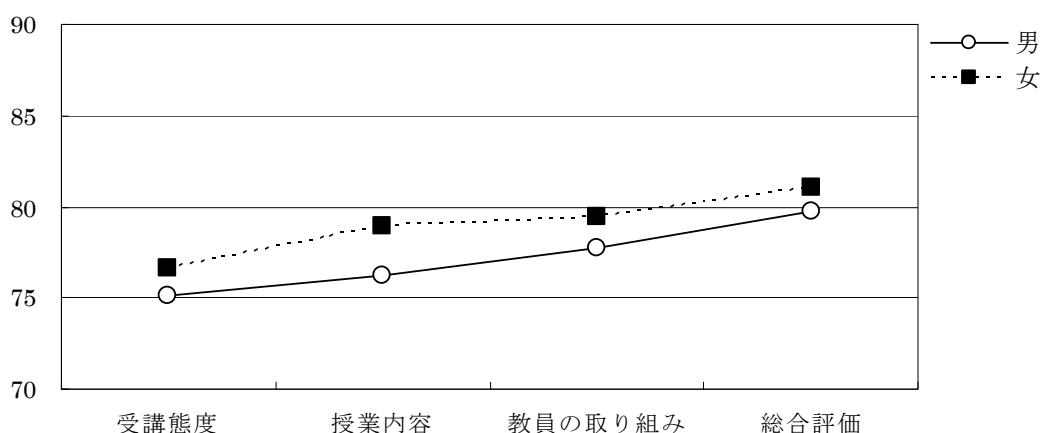


Fig. 3.4 性別の100点換算値

### 1) 男性

男性における100点換算値は75～80点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。男性は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。女性と比較すると、男性は全カテゴリーの評価が低くなっているが、その差は小さかった。

### 2) 女性

女性における100点換算値は75～85点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。女性は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。男性と比較すると、女性は全カテゴリーの評価が高くなっているが、その差は小さかった。

## 1.5. 科目分類による比較

### 対象

対象は、語学81科目、基礎63科目、専門306科目、教職32科目であった。

### 処理の手続き

科目分類ごとに、ESTのカテゴリーごとに平均と標準偏差を求めた。さらに、カテゴリーごとに平均値を100点換算した。

**結果**

科目分類ごとの平均と標準偏差をカテゴリーごとに Table 3.5 に示す。また、100点換算値をカテゴリーごとに Fig. 3.5 に示す。

Table 3.5 科目分類の平均と標準偏差

科目分類		①受講態度	②授業内容	③教員の 取り組み	④総合評価
		(15点)	(30点)	(60点)	(5点)
語学	平均	11.82	22.34	49.29	4.15
	(標準偏差)	(2.16)	(4.88)	(8.82)	(0.93)
基礎	平均	11.17	21.36	45.70	3.82
	(標準偏差)	(2.15)	(5.24)	(9.73)	(1.02)
専門	平均	11.32	23.77	47.13	4.05
	(標準偏差)	(2.21)	(4.85)	(9.68)	(0.97)
教職	平均	11.49	23.10	46.10	3.91
	(標準偏差)	(2.03)	(5.20)	(10.69)	(1.08)

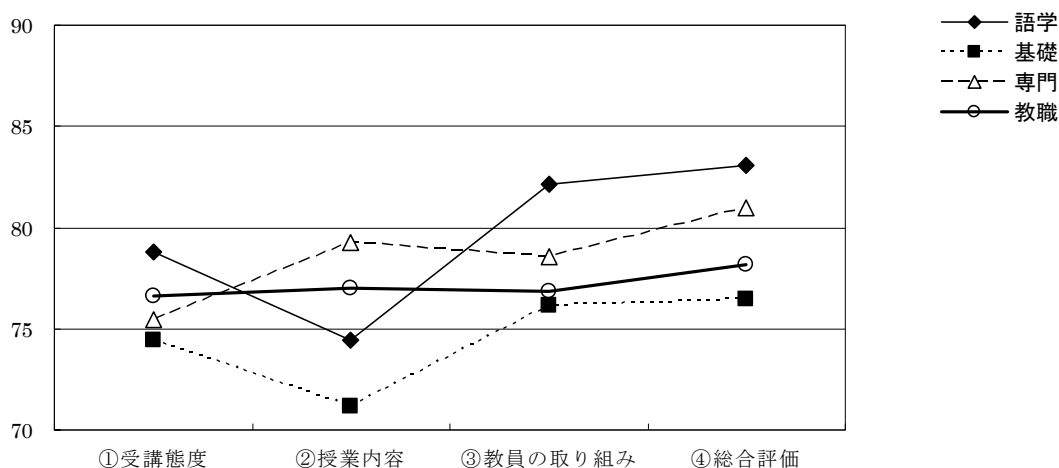


Fig. 3.5 科目分類の100点換算値

**1) 語学科目**

語学科目の100点換算値は70~85点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。語学科目は〈④総合評価〉が高く、〈②授業内容〉は低かった。他の科目分類と比較すると、語学科目は〈①受講態度〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉において最も高い評価を得ていた。

**2) 基礎科目**

基礎科目の100点換算値は70~80点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。基礎科目の評価は〈④総合評価〉が高く、〈②授業内容〉は低かった。他の科目分類と比較すると、

基礎科目は全カテゴリーにおいて最も評価が低かった。

### 3) 専門科目

専門科目の100点換算値は75～85点の評価の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。専門科目の評価は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他の科目分類と比較すると、専門科目は〈②授業内容〉において最も高い評価を得ていた。

### 4) 教職科目

教職科目の100点換算値は75～80点の評価の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。教職科目の評価は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他の科目分類と比較すると、全カテゴリーにおいて中程度の評価を得ていた。

## 1.6. 受講者数による比較

### 対象

各科目の受講者数により、受講者数1～20人（194科目）、21～50人（212科目）、51～80人（54科目）、81人以上（42科目）の4群に群わけをおこなった。

### 処理の手続き

受講者数ごとに、ESTの各カテゴリーの平均と標準偏差を求めた。さらに、カテゴリーごとに平均値を100点換算した。

### 結果

受講者数による群ごとの平均と標準偏差をカテゴリーごとに Table 3.6 に示す。また、100点換算値をカテゴリーごとに Fig. 3.6 に示す。

Table 3.6 受講者数による群ごとの平均と標準偏差

受講者数		①受講態度	②授業内容	③教員の 取り組み	④総合評価
		(15点)	(30点)	(60点)	(5点)
1～20人	平均	11.39	23.92	50.08	4.28
	(標準偏差)	(2.36)	(4.95)	(8.96)	(0.96)
21～50人	平均	11.56	23.86	48.77	4.17
	(標準偏差)	(2.11)	(4.69)	(8.70)	(0.89)
51～80人	平均	11.17	22.56	45.57	3.88
	(標準偏差)	(2.27)	(4.87)	(9.28)	(0.93)
81人以上	平均	11.13	22.30	44.04	3.74
	(標準偏差)	(2.08)	(4.99)	(9.83)	(1.03)

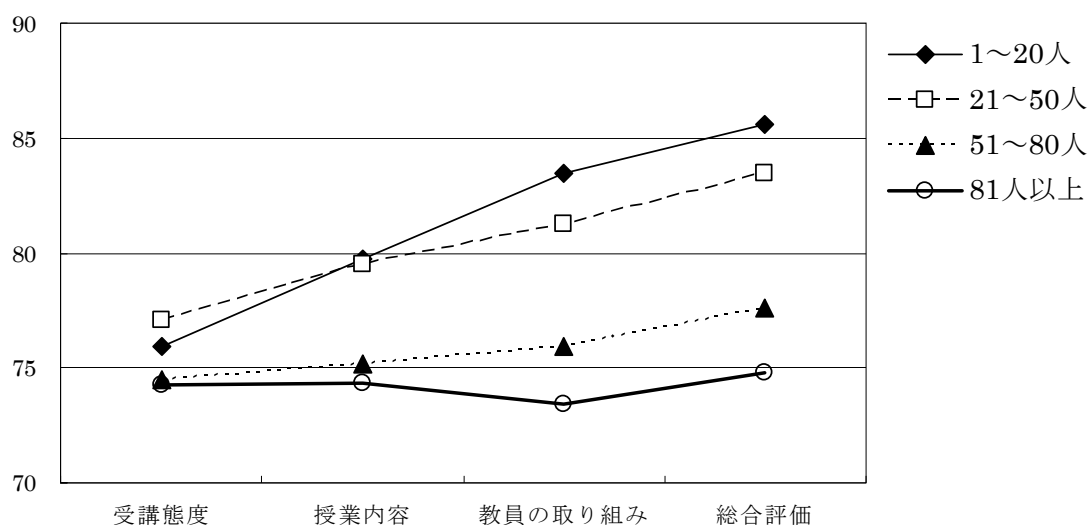


Fig. 3.6 受講者数による群ごとの100点換算値

1) 1～20人

受講者数が1～20人の100点換算値は75～90点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。1～20人は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他の群と比較すると〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉において評価が最も高かった。

2) 21～50人

受講者数が21～50人の100点換算値は75～85点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。21～50人は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他の群と比較すると、〈①受講態度〉において評価が最も高かった。

3) 51～80人

受講者数が51～80人の100点換算値は70～80点の評価の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。51～80人は〈④総合評価〉が高く、〈①受講態度〉は低かった。他の群と比較すると、全カテゴリーにおいて81人以上の次に評価が低かった。

4) 81人以上

受講者数が81人以上の100点換算値は70～75点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。81人以上は〈④総合評価〉が高く、〈③教員の取り組み〉は低かった。他の群と比較すると、全カテゴリーにおいて評価が最も低かった。

2. 学科の結果

対象

社会学部4学科、保健科学部3学科、社会福祉学部6学科、政策マネジメント学部2学科、心理学部1学科、文化財学部1学科、の計17学科を対象とした。各学科に在籍してい

る学年は、学部改組のため、学科によって異なっている。学部ごとの学科と学科に在籍している学年の一覧を Table 3.7 に示す。

Table 3.7 学部および学科一覧

学部	学科
社会学部	国際社会学科 ビジネスコミュニケーション学科 文化財修復国際協力学科 (2～4年) スポーツ社会学科
保健科学部	看護学科 理学療法学科 作業療法学科
社会福祉学部	社会福祉学科 健康スポーツ学科 精神保健福祉学科 (3～4年) 子ども福祉学科 (1～2年) 臨床心理学科 (1～2年) 福祉ボランティア学科 (2～4年)
政策マネジメント学部	知的財産マネジメント学科 環境リスクマネジメント学科
心理学部	臨床心理学科 (1年)
文化財学部	文化財修復国際協力学科 (1年)

\* ( ) は在籍している学年を示している  
\* ( ) がない学科は全ての学年が在籍している

#### 処理の手続き

全学・学部・学科ごとに、EST の各カテゴリーの平均と標準偏差を算出した。さらに、カテゴリーごとに平均値を 100 点換算した。



## 2.1. 社会学部国際社会学科

### 対象

対象科目の選定より、選定された科目のうち、授業アンケートが実施された 67 科目を対象とした。延べ受講者数は 846 名（男性 658 人、女性 188 人）であった。

### 結果

国際社会学科における、平均・標準偏差・100 点換算値をカテゴリーごとに Table 3.8 に示す。また、項目ごとの国際社会学科の平均を Fig. 3.7 に示す。

Table 3.8 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会学部	11.55	(2.30)	77.0
		国際社会学科	11.83	(2.49)	78.8
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会学部	23.06	(5.26)	76.9
		国際社会学科	23.72	(5.17)	79.1
II 教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会学部	47.25	(10.39)	78.7
		国際社会学科	50.31	(9.18)	83.8
III 総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会学部	4.02	(1.04)	80.4
		国際社会学科	4.24	(0.90)	84.8

#### 1) カテゴリー

国際社会学科の 100 点換算値は 75～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。国際社会学科は〈④総合評価〉の評価が高く、〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると、国際社会学科は全カテゴリーにおいて評価が高かった。

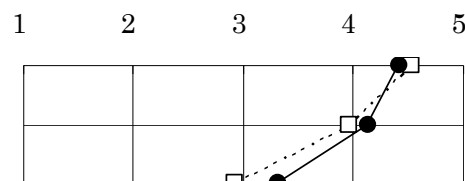
#### 2) 項目

全ての項目で平均 3 点以上であり、概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.7 を見ると、国際社会学科の評価の傾向は、全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると、「I-1」を除く全ての項目において、全学の平均を上回っていた。「I-1」学生の出席に関しては、4 点以上であるものの、他学科ほど評価が高くなかった。また、「II-18」シラバスに関しては、全学との差が最も大きく、他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

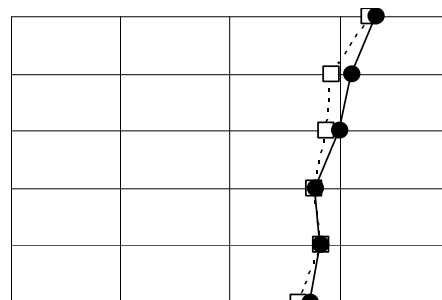
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



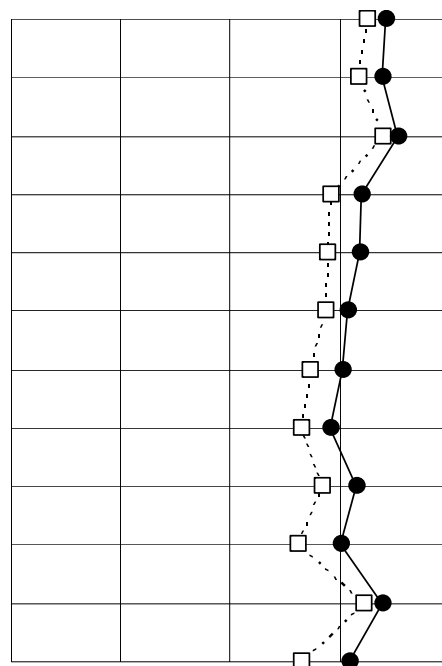
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



Fig. 3.7 国際社会学科における各項目の平均

## 2.2. 社会学部ビジネスコミュニケーション学科

### 対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 64 科目を対象とした。延べ受講者数は 1026 名（男性 855 人，女性 171 人）であった。

### 結果

ビジネスコミュニケーション学科における，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリーごとに Table 3.9 に示す。また，項目ごとのビジネスコミュニケーション学科の平均を Fig. 3.8 に示す。

Table 3.9 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

	カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I	受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
			社会学部	11.55	(2.30)	77.0
			ビジネスコミュニケーション学科	11.68	(2.24)	77.9
II	授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
			社会学部	23.06	(5.26)	76.9
			ビジネスコミュニケーション学科	23.72	(4.97)	79.1
II	教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
			社会学部	47.25	(10.39)	78.7
			ビジネスコミュニケーション学科	49.11	(9.28)	81.8
III	総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
			社会学部	4.02	(1.04)	80.4
			ビジネスコミュニケーション学科	4.21	(0.93)	84.2

#### 1) カテゴリー

ビジネスコミュニケーション学科の 100 点換算値は 75～85 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。ビジネスコミュニケーション学科は〈④総合評価〉の評価が高く，〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると，ビジネスコミュニケーション学科は，全カテゴリーにおいて評価が高かった。

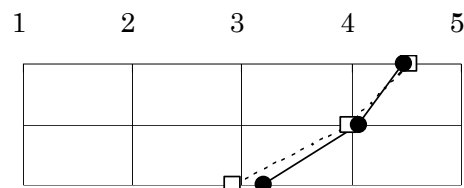
#### 2) 項目

全ての項目で平均 3 点以上であり，概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.8 を見ると，ビジネスコミュニケーション学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，「I-1」を除く全ての項目において，全学の平均を上回っていた。「I-1」学生の出席に関しては，4 点以上であるものの，他学科ほど評価が高くなかった。

### III. 授業アンケート結果

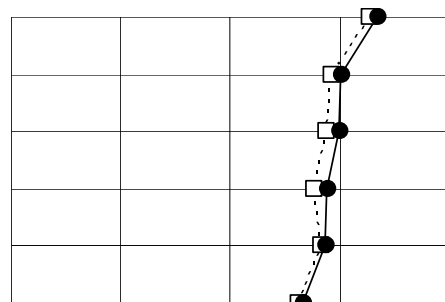
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



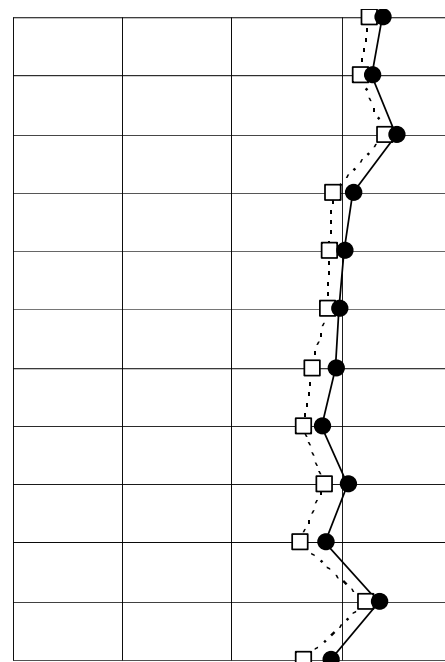
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する

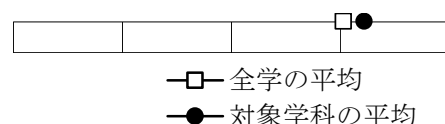


Fig. 3.8 ビジネスコミュニケーション学科における各項目の平均

### 2.3. 社会学部文化財修復国際協力学科

#### 対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 35 科目を対象とした。延べ受講者数は 541 名（男性 310 人，女性 231 人）であった。

#### 結果

文化財修復国際協力学科において，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリーごとに Table 3.10 に示す。また，項目ごとの文化財修復国際協力学科の平均を Fig. 3.9 に示す。

Table 3.10 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I	受講態度 (15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会学部	11.55	(2.30)	77.0
		文化財修復国際協力学科	10.69	(2.13)	71.3
II	授業内容 (30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会学部	23.06	(5.26)	76.9
		文化財修復国際協力学科	21.91	(5.11)	73.0
II	教員の 取り組み (60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会学部	47.25	(10.39)	78.7
		文化財修復国際協力学科	45.25	(9.32)	75.4
III	総合評価 (5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会学部	4.02	(1.04)	80.4
		文化財修復国際協力学科	3.91	(0.98)	78.2

#### 1) カテゴリー

文化財修復国際協力学科の 100 点換算値は 70～80 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。文化財修復国際協力学科は〈④総合評価〉の評価が高く，〈①受講態度〉の評価は低かった。全学と比較すると，文化財修復国際協力学科は，全カテゴリーにおいて評価が低かった。

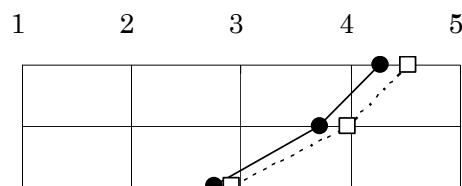
#### 2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.9 を見ると，文化財修復国際協力学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，「II-1」を除く全ての項目において全学の平均を下回っていた。このことから，「II-1」授業の専門性に関しては他学科と同等に評価されているが，そのほかの項目については他学科ほどの評価を得られていない。特に，「II-4」就職や進学との関連性に関しては，全学との差が最も大きく，他学科より評価が低かった。

### III. 授業アンケート結果

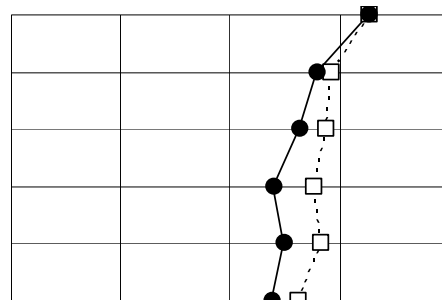
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



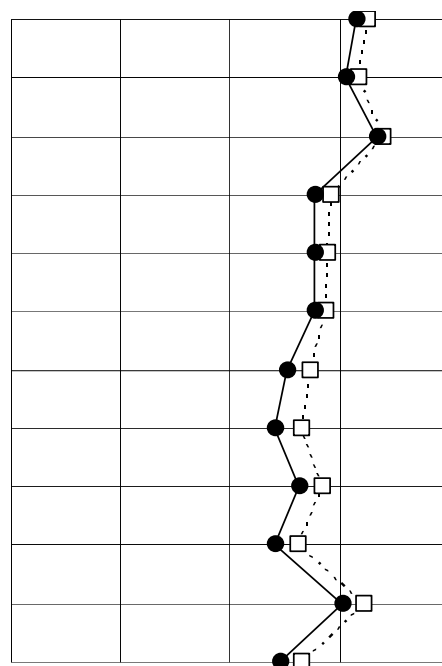
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



□ 全学の平均  
● 対象学科の平均

Fig. 3.9 文化財修復国際協力学科における各項目の平均

## 2.4. 社会学部スポーツ社会学科

### 対象

選定された対象科目のうち，授業アンケートが実施された 35 科目を対象とした。延べ受講者数は 1323 名（男性 971 人，女性 352 人）であった。

### 結果

スポーツ社会学科における，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリごとに Table 3.11 に示す。また，項目ごとのスポーツ社会学科の平均を Fig. 3.10 に示す。

Table 3.11 カテゴリごとの平均と 100 点換算

カテゴリ	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会学部	11.55	(2.30)	77.0
		スポーツ社会学科	11.65	(2.21)	77.6
II	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会学部	23.06	(5.26)	76.9
		スポーツ社会学科	22.67	(5.49)	75.6
II	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会学部	47.25	(10.39)	78.7
		スポーツ社会学科	44.82	(11.54)	74.7
III	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会学部	4.02	(1.04)	80.4
		スポーツ社会学科	3.79	(1.15)	75.8

#### 1) カテゴリ

スポーツ社会学科の 100 点換算値は 70～80 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。スポーツ社会学科の評価は〈①受講態度〉の評価が高く，〈③教員の取り組み〉の評価が低かった。全学と比較すると，スポーツ社会学科は〈①受講態度〉は高いが，〈②授業評価〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉が低かった。

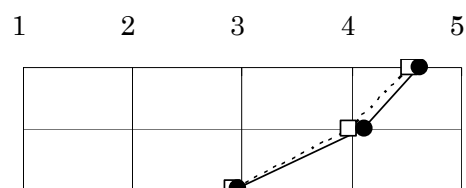
#### 2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.10 を見ると，スポーツ社会学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，「I-1」～「I-3」を除く全ての項目において，全学の平均を下回っていた。その中でも，「II-9」教員の経験や知識に関しては，4 点以上であるものの，他学科ほど評価が高くなかった。

### III. 授業アンケート結果

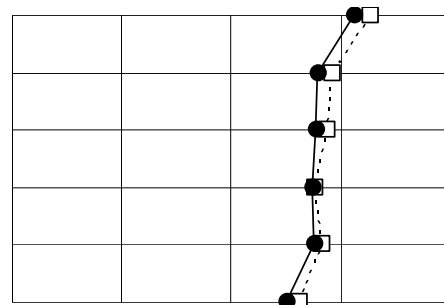
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



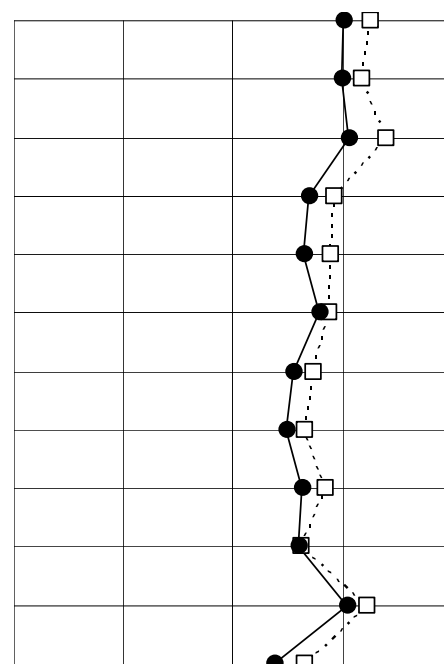
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていました
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



—□— 全学の平均  
—●— 対象学科の平均

会学 Fig. 3.10 スポーツ社科における各項目の平均



## 2.5. 保健科学部看護学科

### 対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 52 科目を対象とした。延べ受講者数は 1517 名（男性 151 人，女性 1366 人）であった。

### 結果

看護学科における，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリごとに Table 3.12 に示す。また，項目ごとの看護学科の平均を Fig. 3.11 に示す。

Table 3.12 カテゴリごとの平均と 100 点換算

カテゴリ	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I	受講態度 (15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		保健科学部	11.87	(1.85)	79.1
		看護学科	11.84	(1.95)	78.9
II	授業内容 (30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		保健科学部	25.05	(4.54)	83.5
		看護学科	24.93	(4.65)	83.1
II	教員の 取り組み (60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		保健科学部	49.49	(8.85)	82.5
		看護学科	48.36	(9.41)	80.6
III	総合評価 ( 5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		保健科学部	4.21	(0.91)	84.2
		看護学科	4.13	(0.94)	82.6

#### 1) カテゴリ

看護学科の 100 点換算値は 75～85 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。看護学科の評価は〈②授業内容〉の評価が高く，〈①受講態度〉の評価は低かった。全学と比較すると，看護学科は全カテゴリにおいて評価が高かった。

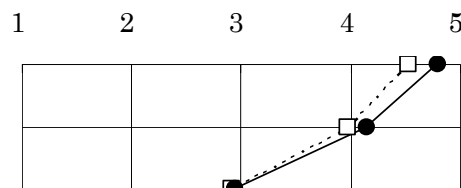
#### 2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.11 を見ると，看護学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，全ての項目において全学の平均を上回っていた。特に，「II-5」将来との関連性に関しては，全学との差が最も大きく，他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

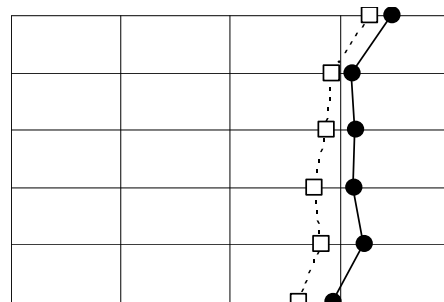
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



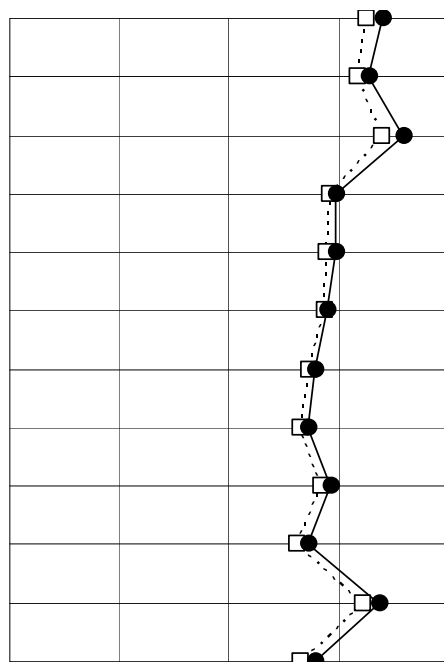
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていました
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



—□— 全学の平均  
—●— 対象学科の平均

Fig. 3.11 看護学科における各項目の平均

2.6. 保健科学部理学療法学科

対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 33 科目を対象とした。延べ受講者数は 1038 名（男性 576 人，女性 462 人）であった。

結果

理学療法学科において，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリーごとに Table 3.13 に示す。また，項目ごとの理学療法学科の平均を Fig. 3.12 に示す。

Table 3.13 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		保健科学部	11.87	(1.85)	79.1
		理学療法学科	12.00	(1.81)	80.0
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		保健科学部	25.05	(4.54)	83.5
		理学療法学科	25.57	(4.60)	85.2
II 教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		保健科学部	49.49	(8.85)	82.5
		理学療法学科	50.56	(9.34)	84.3
III 総合評価	( 5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		保健科学部	4.21	(0.91)	84.2
		理学療法学科	4.29	(0.99)	85.8

1) カテゴリー

理学療法学科の 100 点換算値は 80～90 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。理学療法学科は〈④総合評価〉が高く，〈①受講態度〉の評価は低かった。全学と比較すると，理学療法学科は全カテゴリーにおいて評価が高かった。

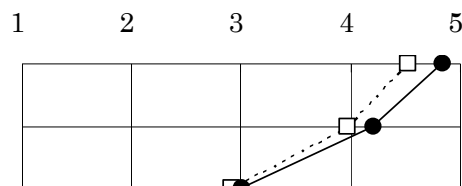
2) 項目

全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.12 を見ると，理学療法学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，全ての項目において全学の平均を上回っていた。特に，「Ⅱ-4」「Ⅱ-5」は，全学との差が最も大きかった。このことから，就職や進学，将来との関連性に関しては，他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

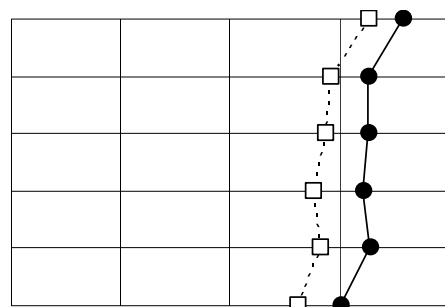
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



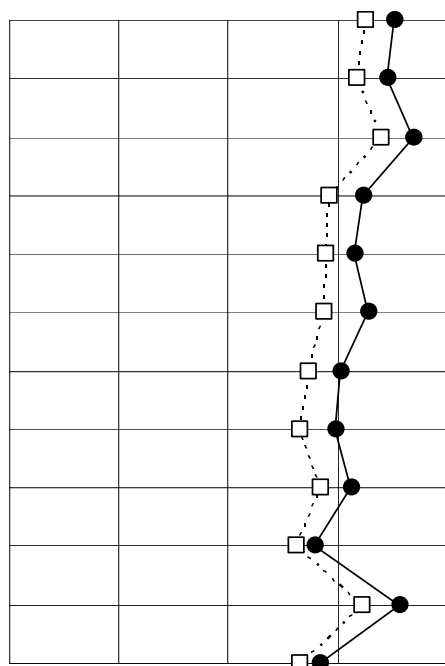
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていました
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する

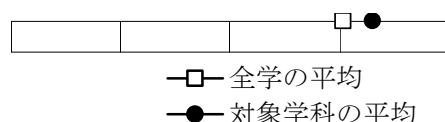


Fig. 3.12 理学療法学科における各項目の平均

## 2.7. 保健科学部作業療法学科

### 対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 38 科目を対象とした。延べ受講者数は 1293 名（男性 351 人，女性 942 人）であった。

### 結果

作業療法学科において，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリーごとに Table 3.14 に示す。また，項目ごとの作業療法学科の平均を Fig. 3.13 に示す。

Table 3.14 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I	受講態度 (15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		保健科学部	11.87	(1.85)	79.1
		作業療法学科	11.79	(1.74)	78.6
II	授業内容 (30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		保健科学部	25.05	(4.54)	83.5
		作業療法学科	24.78	(4.30)	82.6
II	教員の 取り組み (60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		保健科学部	49.49	(8.85)	82.5
		作業療法学科	50.15	(7.38)	83.6
III	総合評価 ( 5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		保健科学部	4.21	(0.91)	84.2
		作業療法学科	4.26	(0.77)	85.2

#### 1) カテゴリー

作業療法学科の 100 点換算値は 75～90 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。作業療法学科は〈④総合評価〉が高く，〈①受講態度〉の評価は低かった。全学と比較すると，作業療法学科は全カテゴリーにおいて評価が高かった。

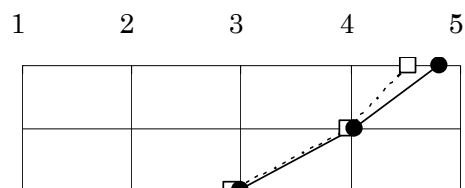
#### 2) 項目

全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.13 を見ると，作業療法学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，全ての項目において全学の平均を上回っていた。特に，「Ⅱ-5」将来との関係性に関しては全学との差が最も大きく，他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

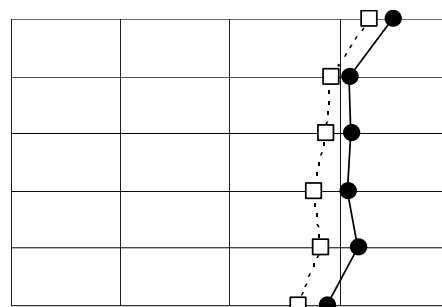
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



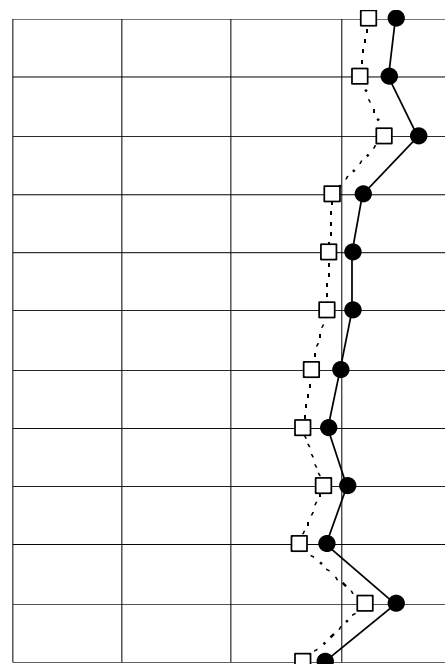
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていました
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



—□— 全学の平均  
—●— 対象学科の平均

Fig. 3.13 作業療法学科における各項目の平均

## 2.8. 社会福祉学部社会福祉学科

### 対象

対象科目の選定より、選定された科目のうち、授業アンケートが実施された 62 科目を対象とした。延べ受講者数は 2247 名（男性 1408 人、女性 839 人）であった。

### 結果

社会福祉学科における、平均・標準偏差・100 点換算値を、カテゴリーごとに Table 3.15 に示す。また、項目ごとの社会福祉学科の平均を Fig. 3.14 に示す。

Table 3.15 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会福祉学部	11.01	(2.22)	73.4
		<b>社会福祉学科</b>	<b>11.03</b>	<b>(2.20)</b>	<b>73.5</b>
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会福祉学部	22.28	(4.92)	74.3
		<b>社会福祉学科</b>	<b>22.14</b>	<b>(4.62)</b>	<b>73.8</b>
II 教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会福祉学部	45.40	(9.70)	75.7
		<b>社会福祉学科</b>	<b>45.38</b>	<b>(9.24)</b>	<b>75.6</b>
III 総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会福祉学部	3.89	(0.99)	77.7
		<b>社会福祉学科</b>	<b>3.87</b>	<b>(0.94)</b>	<b>77.4</b>

#### 1) カテゴリー

社会福祉学科の 100 点換算値は 70～80 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。社会福祉学科の評価は〈④総合評価〉の評価は高く、〈①受講態度〉の評価は低かった。全学と比較すると、社会福祉学科は全カテゴリーにおいて評価が低かった。

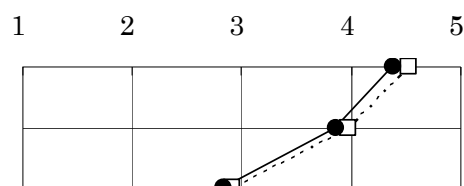
#### 2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において、平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.14 を見ると、社会福祉学科の評価の傾向は、全学と同様のものではなかった。各項目を全学と比較すると、全ての項目において全学の平均を下回っていた。特に、「II-6」他者に誇れる内容に関しては全学との差が最も大きく、他学科より評価が低かった。

### Ⅲ. 授業アンケート結果

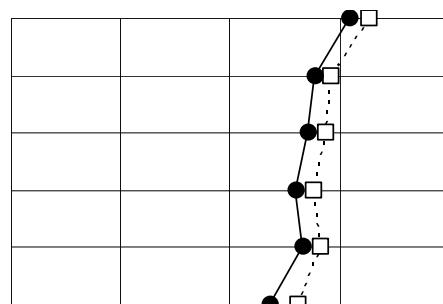
#### Ⅰ <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



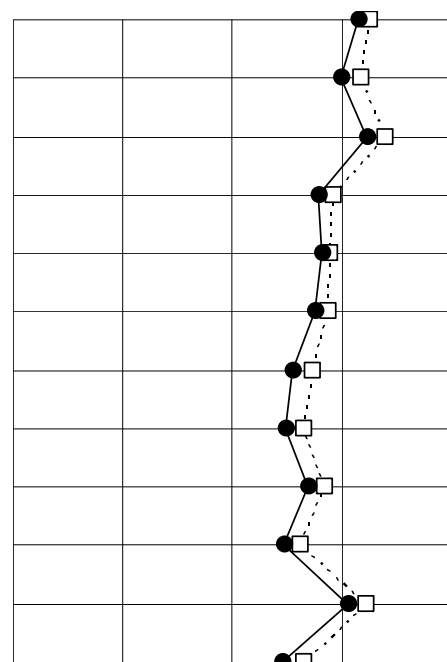
#### Ⅱ <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていました
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### Ⅲ <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



□ 全学の平均  
● 対象学科の平均

Fig. 3.14 社会福祉学科における各項目の平均



## 2.9. 社会福祉学部健康スポーツ福祉学科

### 対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 52 科目を対象とした。延べ受講者数は 2212 名（男性 1644 人，女性 568 人）であった。

### 結果

健康スポーツ福祉学科における，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリーごとに Table 3.16 に示す。また，項目ごとの健康スポーツ福祉学科の平均を Fig. 3.15 に示す。

Table 3.16 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会福祉学部	11.01	(2.22)	73.4
		健康スポーツ福祉学科	11.00	(2.22)	73.3
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会福祉学部	22.28	(4.92)	74.3
		健康スポーツ福祉学科	21.23	(5.08)	70.8
II 教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会福祉学部	45.40	(9.70)	75.7
		健康スポーツ福祉学科	43.53	(10.49)	72.6
III 総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会福祉学部	3.89	(0.99)	77.7
		健康スポーツ福祉学科	3.72	(1.04)	74.4

#### 1) カテゴリー

健康スポーツ福祉学科の 100 点換算値は 70～75 点の範囲であり，概ね高く評価を得ていた。健康スポーツ福祉学科は〈④総合評価〉の評価は高く，〈②授業内容〉の評価が低かった。全学と比較すると，健康スポーツ福祉学科は全ての項目において評価が低かった。

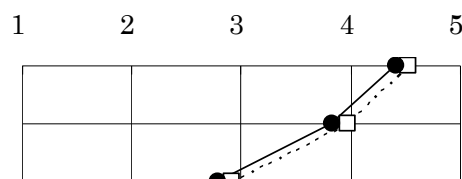
#### 2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高く評価を得ていた。Fig. 3.15 を見ると，健康スポーツ福祉学科の評価の傾向は，全学と同様のものではなかった。各項目を全学と比較すると，全ての項目において全学の平均を下回っていた。特に，「II-5」将来との関連性に関しては全学との差が最も大きく，他学科より評価が低かった。

### III. 授業アンケート結果

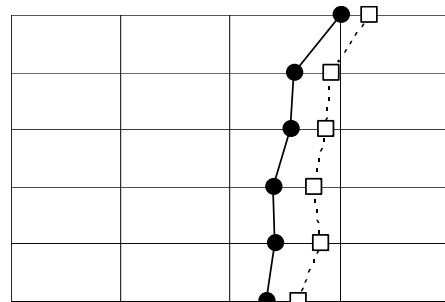
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



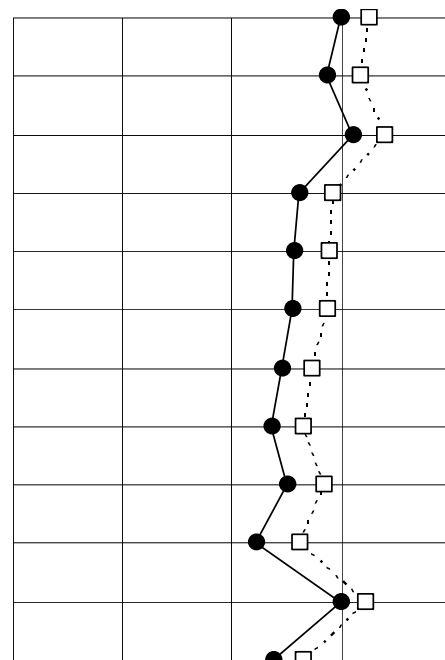
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する

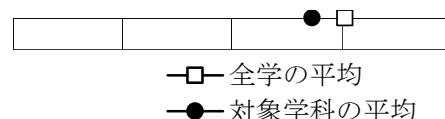


Fig. 3.15 健康スポーツ学科における各項目の平均

2.10. 社会福祉学部精神保健福祉学科

対象

対象科目の選定より、選定された科目のうち、授業アンケートが実施された 35 科目を対象とした。延べ受講者数は 383 名（男性 231 人、女性 152 人）であった。

結果

精神保健福祉学科における、平均・標準偏差・100 点換算値を、カテゴリーごとに Table 3.17 に示す。また、項目ごとの精神保健福祉学科の平均を Fig. 3.16 に示す。

Table 3.17 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会福祉学部	11.01	(2.22)	73.4
		精神保健福祉学科	10.94	(2.28)	73.0
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会福祉学部	22.28	(4.92)	74.3
		精神保健福祉学科	22.59	(4.87)	75.3
II 教員の取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会福祉学部	45.40	(9.70)	75.7
		精神保健福祉学科	46.15	(8.85)	76.9
III 総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会福祉学部	3.89	(0.99)	77.7
		精神保健福祉学科	4.00	(0.97)	80.1

1) カテゴリー

精神保健福祉学科の 100 点換算値は 70～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。精神保健福祉学科は〈④総合評価〉の評価が高く、〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると、精神保健福祉学科は全カテゴリーにおいて評価が低かった。

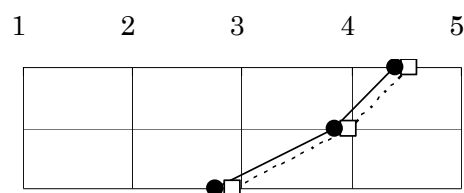
2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において、平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.16 を見ると、精神保健福祉学科の評価の傾向は、全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると、全ての項目において全学の平均とほぼ同じであった。その中で、「II-18」シラバスに関しては全学との差が最も大きく、他学科より評価が低かった。

### III. 授業アンケート結果

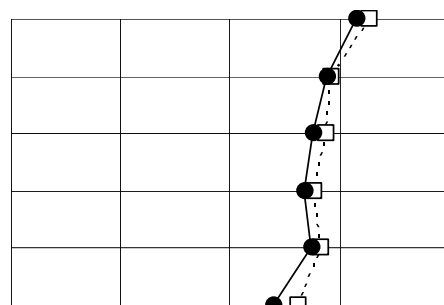
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



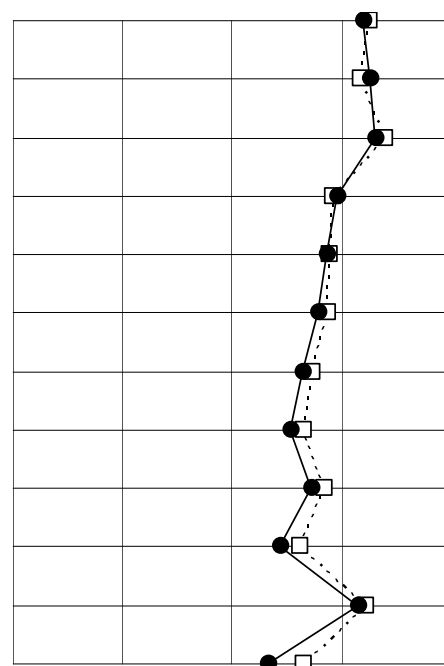
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



□ 全学の平均  
● 対象学科の平均

Fig. 3.16 精神保健福祉学科における各項目の平均値

## 2.11. 社会福祉学部子ども福祉学科

### 対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 31 科目を対象とした。延べ受講者数は 1003 名（男性 475 人，女性 528 人）であった。

### 結果

子ども福祉学科における，平均・標準偏差・100 点換算値をカテゴリーごとに Table 3.18 に示す。また，項目ごとの子ども福祉学科の平均を Fig. 3.17 に示す。

Table 3.18 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会福祉学部	11.01	(2.22)	73.4
		子ども福祉学科	11.55	(1.93)	77.0
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会福祉学部	22.28	(4.92)	74.3
		子ども福祉学科	23.42	(5.24)	78.1
II 教員の取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会福祉学部	45.40	(9.70)	75.7
		子ども福祉学科	46.26	(10.01)	77.1
III 総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会福祉学部	3.89	(0.99)	77.7
		子ども福祉学科	3.96	(1.03)	79.3

#### 1) カテゴリー

子ども福祉学科の 100 点換算値は 75～80 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。子ども福祉学科は〈④総合評価〉の評価が高く，〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると，子ども福祉学科は〈①受講態度〉〈②授業内容〉は高いが，〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉が低かった。

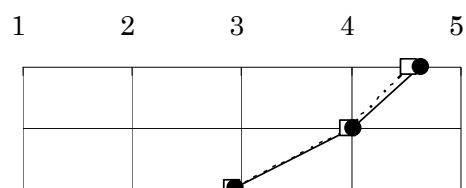
#### 2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.17 を見ると，子ども福祉学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，全ての項目において全学の平均とほぼ同じであった。

### Ⅲ. 授業アンケート結果

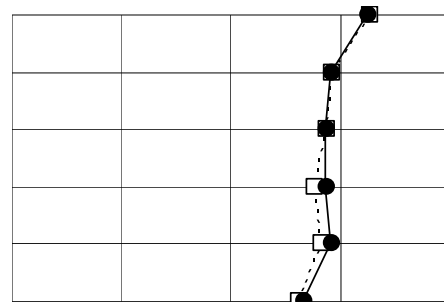
#### Ⅰ <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



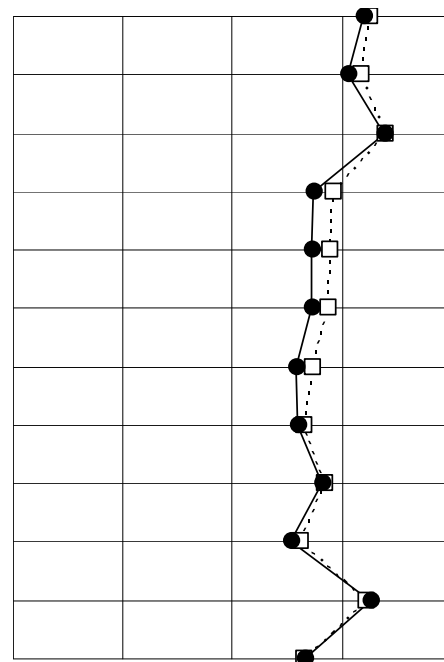
#### Ⅱ <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### Ⅲ <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



—□— 全学の平均  
—●— 対象学科の平均

Fig. 3.17 子ども福祉学科における各項目の平均

## 2.12. 社会福祉学部臨床心理学科

### 対象

対象科目の選定より、選定された科目のうち、授業アンケートが実施された 47 科目を対象とした。延べ受講者数は 997 名（男性 635 人、女性 362 人）であった。

### 結果

臨床心理学科における、平均・標準偏差・100 点換算値を、カテゴリーごとに Table 3.19 に示す。また、項目ごとの臨床心理学科の平均を Fig. 3.18 に示す。

Table 3.19 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.76
		社会福祉学部	11.01	(2.22)	73.42
		臨床心理学科	10.86	(2.12)	72.40
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.40
		社会福祉学部	22.28	(4.92)	74.27
		臨床心理学科	23.10	(4.59)	77.01
II 教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.46
		社会福祉学部	45.40	(9.70)	75.66
		臨床心理学科	47.06	(8.72)	78.43
III 総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.31
		社会福祉学部	3.89	(0.99)	77.72
		臨床心理学科	4.02	(0.92)	80.32

#### 1) カテゴリー

臨床心理学科の 100 点換算値は 70～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。臨床心理学科は〈④総合評価〉の評価が高く、〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると、臨床心理学科は〈④総合評価〉は高いが、〈①受講態度〉〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉が低かった。

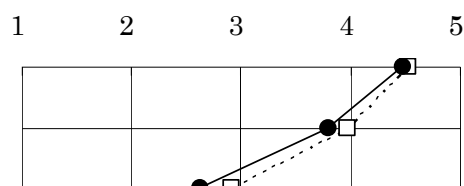
#### 2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において、平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.18 を見ると、臨床心理学科の評価の傾向は、全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると、全ての項目において全学の平均とほぼ同じであった。その中で、「I-3」自主的な学習に関しては全学との差が最も大きく、他学科より評価が低かった。

### III. 授業アンケート結果

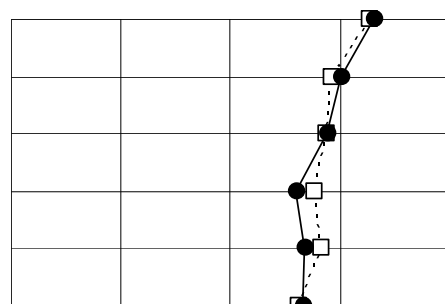
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



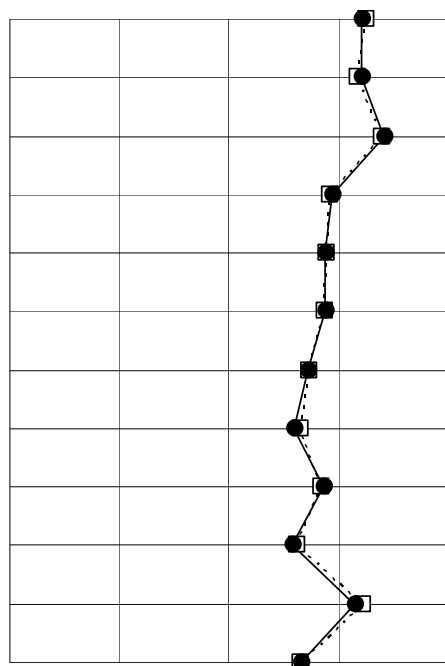
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



□ 全学の平均  
● 対象学科の平均

Fig. 3.18 臨床心理学科における各項目の平均



2.13. 社会福祉学部福祉ボランティア学科

対象

対象科目の選定より，選定された科目のうち，授業アンケートが実施された 53 科目を対象とした。延べ受講者数は 629 名（男性 447 人，女性 182 人）であった。

結果

福祉ボランティア学科における，平均・標準偏差・100 点換算値を，カテゴリーごとに Table 3.20 に示す。また，項目ごとの福祉ボランティア学科の平均を Fig. 3.19 に示す。

Table 3.20 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.8
		社会福祉学部	11.01	(2.22)	73.4
		福祉ボランティア学科	10.43	(2.65)	69.5
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.4
		社会福祉学部	22.28	(4.92)	74.3
		福祉ボランティア学科	23.14	(4.69)	77.1
II 教員の取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.5
		社会福祉学部	45.40	(9.70)	75.7
		福祉ボランティア学科	47.52	(8.70)	79.2
III 総合評価	( 5点)	全学	4.02	(0.98)	80.3
		社会福祉学部	3.89	(0.99)	77.7
		福祉ボランティア学科	4.13	(0.89)	82.6

1) カテゴリー

福祉ボランティア学科の 100 点換算値は 65～85 点の範囲であり，概ね高い評価を得ていた。福祉ボランティア学科は〈④総合評価〉の評価が高く，〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると，福祉ボランティア学科は〈④総合評価〉〈③教員の取り組み〉は高いが，〈①受講態度〉〈②授業内容〉が低かった。

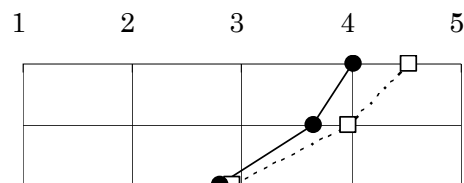
2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において，平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.19 を見ると，福祉ボランティア学科の評価の傾向は，全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると，「I-1」「I-2」を除く全ての項目において，全学の平均とほぼ同じであった。「I-1」は 4 点以上であるものの，全学との差が最も大きかった。このことから，授業への出席に対して他学科ほど評価が高くなかった。

### III. 授業アンケート結果

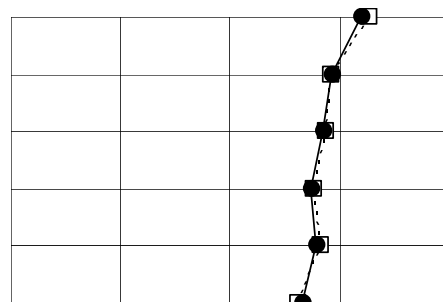
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



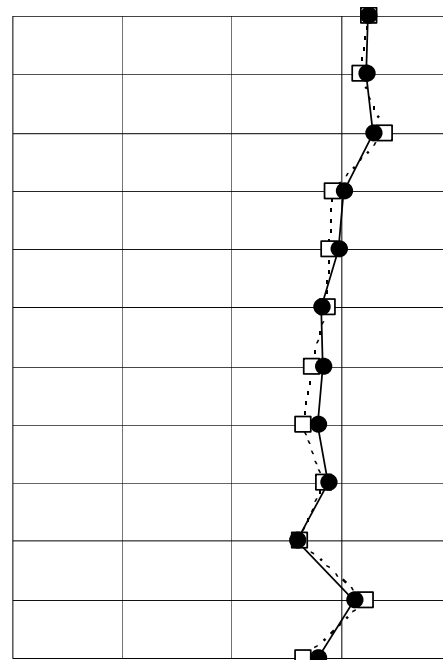
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



□ 全学の平均  
● 対象学科の平均

Fig. 3.19 福祉ボランティア学科における各項目の平均

2.14. 政策マネジメント学部知的財産マネジメント学科

対象

対象科目の選定より、選定された科目のうち、授業アンケートが実施された 51 科目を対象とした。延べ受講者数は 256 名（男性 223 人、女性 33 人）であった。

結果

知的財産マネジメント学科における、平均・標準偏差・100 点換算値をカテゴリーごとに Table 3.21 に示す。また、項目ごとの知的財産マネジメント学科の平均を Fig. 3.20 に示す。

Table 3.21 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.76
		政策マネジメント学部	11.21	(2.32)	74.72
		知的財産マネジメント学科	11.23	(2.35)	74.90
II	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.40
		政策マネジメント学部	23.66	(4.48)	78.86
		知的財産マネジメント学科	24.49	(4.59)	81.64
II	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.46
		政策マネジメント学部	48.73	(8.53)	81.21
		知的財産マネジメント学科	49.61	(9.20)	82.69
III	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.31
		政策マネジメント学部	4.15	(0.89)	83.03
		知的財産マネジメント学科	4.22	(0.91)	84.38

1) カテゴリー

知的財産マネジメント学科の 100 点換算値は 70～85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。知的財産マネジメント学科は〈④総合評価〉の評価が高く、〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると、知的財産マネジメント学科は〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉は高いが、〈①受講態度〉が低かった。

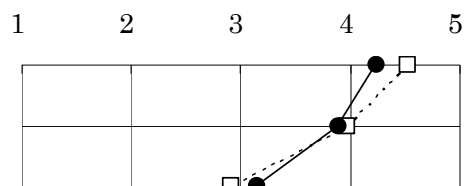
2) 項目

全ての項目において、平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.20 を見ると、知的財産マネジメント学科の評価の傾向は、全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると、「I-1」「I-2」を除く全ての項目において、全学の平均を上回っていた。特に、「II-14」学生との相互作用に関しては全学との差が最も大きく、他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

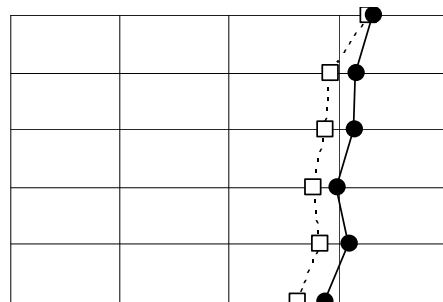
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



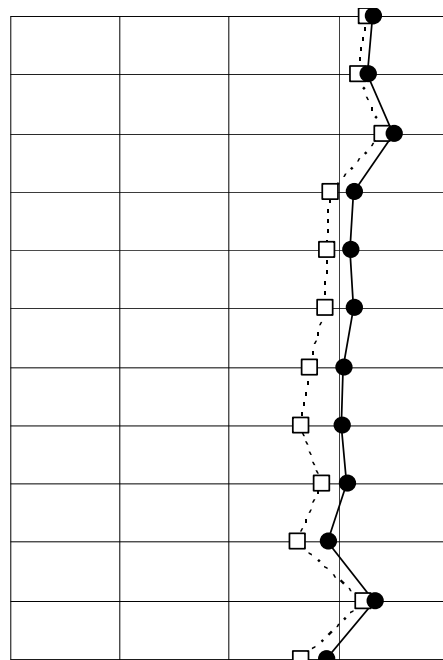
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



—□— 全学の平均  
—●— 対象学科の平均

Fig. 3.20 知的財産マネジメント学科における各項目の平均

## 2.15. 政策マネジメント学部環境リスクマネジメント学科

### 対象

対象科目の選定より、選定された科目のうち、授業アンケートが実施された 56 科目を対象とした。延べ受講者数は 384 名（男性 332 人、女性 52 人）であった。

### 結果

環境リスクマネジメント学科における、平均・標準偏差・100 点換算値をカテゴリごとに Table 3.22 に示す。また、項目ごとの環境リスクマネジメント学科の平均を Fig. 3.21 に示す。

Table 3.22 カテゴリごとの平均と 100 点換算

	カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I	受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.76
			政策マネジメント学部	11.21	(2.32)	74.72
			環境リスクマネジメント学科	11.19	(2.31)	74.60
II	授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.40
			政策マネジメント学部	23.66	(4.48)	78.86
			環境リスクマネジメント学科	23.10	(4.33)	77.01
II	教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.46
			政策マネジメント学部	48.73	(8.53)	81.21
			環境リスクマネジメント学科	48.13	(8.00)	80.22
III	総合評価	( 5点)	全学	4.02	(0.98)	80.31
			政策マネジメント学部	4.15	(0.89)	83.03
			環境リスクマネジメント学科	4.11	(0.87)	82.14

#### 1) カテゴリー

環境リスクマネジメント学科の 100 点換算値は 70~85 点の範囲であり、概ね高い評価を得ていた。環境リスクマネジメント学科は〈④総合評価〉の評価が高く、〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると、環境リスクマネジメント学科は〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉は高いが、〈①受講態度〉〈②授業内容〉が低かった。

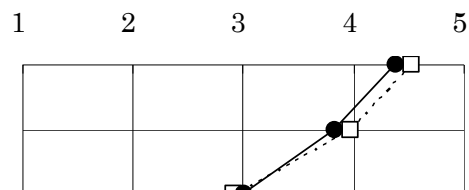
#### 2) 項目

全ての項目において、平均値 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.21 を見ると、環境リスクマネジメント学科の評価の傾向は、全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると、全ての項目において全学の平均とほぼ同じであった。その中で、「Ⅱ-16」課題の量に関しては全学との差が最も大きく、他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

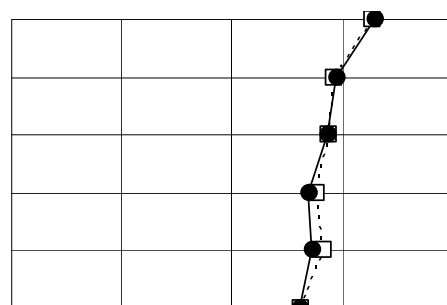
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



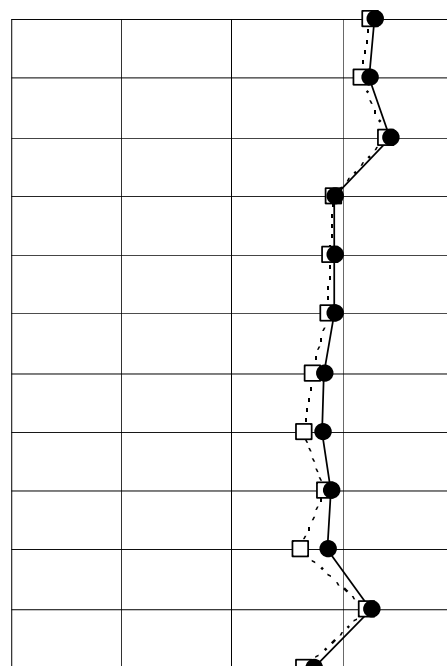
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心をもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



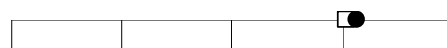
#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



□ 全学の平均  
● 対象学科の平均

Fig. 3.21 環境リスクマネジメント学科における各項目の平均

2.16. 心理学部臨床心理学科

対象

選定された対象科目のうち、授業アンケートが実施された 15 科目を対象とした。延べ受講者数は 282 名（男性 149 人，女性 133 人）であった。

結果

臨床心理学科における、平均・標準偏差・100 点換算値をカテゴリーごとに Table 3.23 に示す。また、項目ごとの臨床心理学科における平均を Fig. 3.22 に示す。

Table 3.23 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.76
		臨床心理学科	11.01	(2.45)	73.40
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.40
		臨床心理学科	23.29	(4.64)	77.64
II 教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.46
		臨床心理学科	50.07	(8.01)	83.46
III 総合評価	( 5点)	全学	4.02	(0.98)	80.31
		臨床心理学科	4.24	(0.88)	84.82

1) カテゴリー

臨床心理学科の 100 点換算値は 70～85 点の範囲であり、概ね高い評価をえていた。臨床心理学科は〈④総合評価〉の評価が高く、〈①受講態度〉の評価が低かった。全学と比較すると、臨床心理学科は〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉は高いが、〈①受講態度〉が低かった。

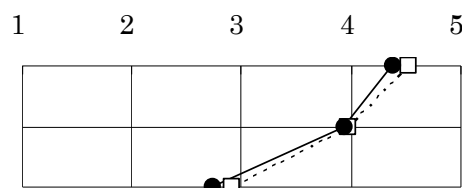
2) 項目

「I-3」を除く全ての項目において、平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.22 を見ると、臨床心理学科の評価の傾向は、全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると、「I-1」～「I-3」「II-4」「II-5」を除く全ての項目において、全学の平均を上回っていた。特に、「II-10」わかりやすさに関しては全学との差が最も大きく、他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

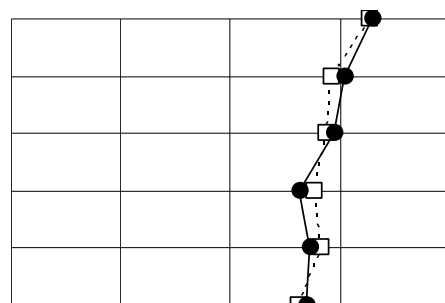
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



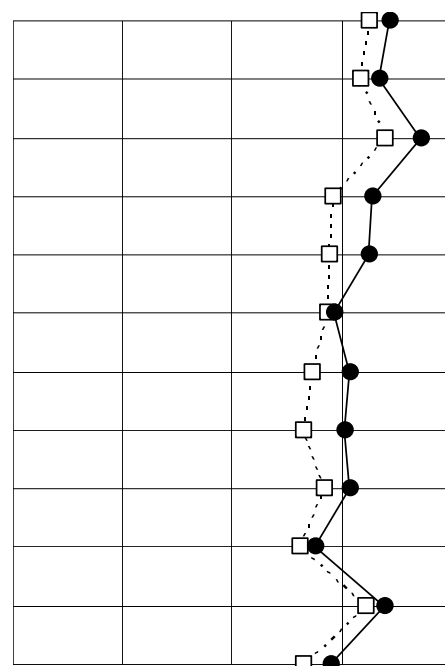
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていました
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する

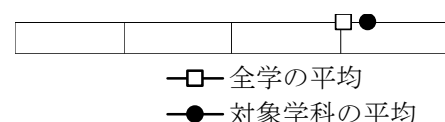


Fig. 3.22 臨床心理学科における各項目の平均



## 2.17. 文化財学部文化財修復国際協力学科

### 対象

選定された対象科目のうち、授業アンケートが実施された 13 科目を対象とした。延べ受講者数は 206 名（男性 102 人、女性 104 人）であった。

### 結果

文化財修復国際協力学科における、平均・標準偏差・100 点換算値をカテゴリーごとに、Table 3.24 に示す。また、項目ごとの文化財修復国際協力学科における平均を Fig. 3.23 に示す。

Table 3.24 カテゴリーごとの平均と 100 点換算

カテゴリー	配点	対象	平均	(標準偏差)	100点換算
I 受講態度	(15点)	全学	11.36	(2.19)	75.76
		文化財修復国際協力学科	11.79	(2.00)	78.58
II 授業内容	(30点)	全学	23.22	(5.02)	77.40
		文化財修復国際協力学科	22.59	(4.98)	75.29
II 教員の 取り組み	(60点)	全学	47.07	(9.73)	78.46
		文化財修復国際協力学科	47.94	(8.26)	79.90
III 総合評価	(5点)	全学	4.02	(0.98)	80.31
		文化財修復国際協力学科	4.03	(1.13)	80.68

#### 1) カテゴリー

文化財修復国際協力学科の 100 点換算値は 75～85 点の評価であり、概ね高い評価を得ていた。文化財修復国際協力学科は〈④総合評価〉の評価が高く、〈②授業内容〉の評価が低かった。全学と比較すると、文化財修復国際協力学科は〈①受講態度〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉は高いが、〈②授業内容〉の評価が低かった。

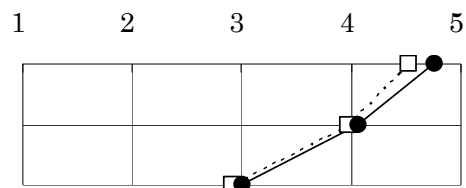
#### 2) 項目

全ての項目において、平均 3 点以上であり概ね高い評価を得ていた。Fig. 3.23 を見ると、文化財修復国大協力学科の評価の傾向は、全学と同様のものであった。各項目を全学と比較すると、特に「Ⅱ-7」「Ⅱ-9」の評価が高く、「Ⅱ-3」～「Ⅱ-6」「Ⅱ-10」は低かった。その他の項目については、大きな差は見られなかった。その中で、「Ⅱ-9」教員の持つ経験や知識に関しては全学との差が最も大きく、他学科より評価が高かった。

### III. 授業アンケート結果

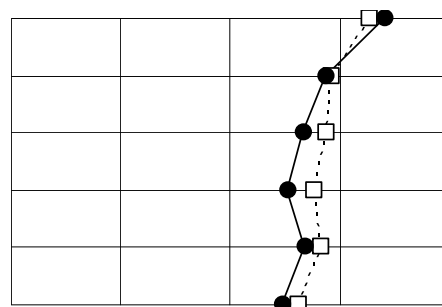
#### I <学生の受講態度>

1. 私は授業によく出席していた
2. 私は授業に積極的な態度で取り組んだ
3. 私は予習・復習などの自主的な学習をした



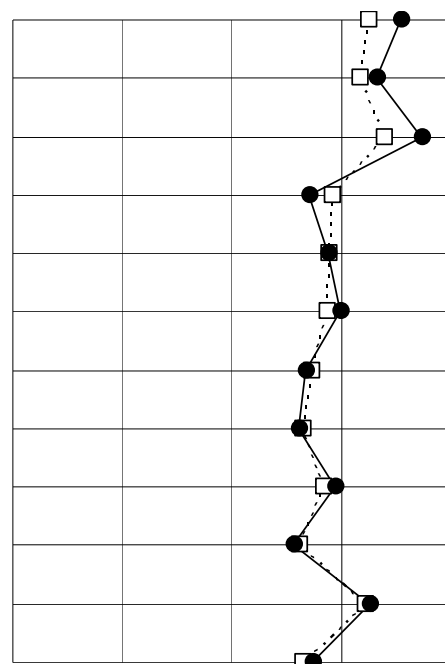
#### II <授業内容>

1. 授業で学んだ内容は専門性の高いものだった
2. 授業で学んだ内容は興味や関心がもてるものだった
3. 授業で学んだ内容は自分を成長させるものだった
4. 授業で学んだ内容は就職や進学に役立つものだった
5. 授業で学んだ内容は将来仕事をする上で役立つものだと感じた
6. 授業で学んだ内容は他者に誇れるものだった



#### <教員の取り組み>

7. 教員は授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員はよく準備された授業をおこなっていた
9. 教員はこの科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は聞き取りやすい話し方をしていました
12. 教員は教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は適切に課題を出していた
17. 教員は授業時間を守っていた
18. 教員は授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた



#### III <総合評価>

総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する



□ 全学の平均  
● 対象学科の平均

Fig. 3.23 文化財修復国際協力量科における各項目の平均

## IV. 考察

### 1. 授業アンケートの結果

2007年度の授業アンケートは、全学部の前期におこなわれた科目のうち、担当教員が1名の講義形態の授業を対象とした。授業アンケート結果について、以下に比較検討をおこなっていく。

#### 1) 全学の傾向

全てのカテゴリーにおいて75点以上であり、概ね高い評価を得ていた。また、カテゴリーに注目すると、〈④総合評価〉が最も高く、続いて〈③教員の取り組み〉〈②授業内容〉の順で、〈①受講態度〉が最も低かった。ここから、学生は総合的に授業を高く評価しながらも、受講態度が良いとはいえない状況であることがわかる。

項目ごとに見た場合、〈①受講態度〉では、「I-1」が高く、「I-3」が低かった。このことから、学生は授業に出席はしているが、自主的に学習に取り組んでいないことがわかる。

〈②授業内容〉では「II-1」が高かった。このことから、教員は授業において専門的な内容を取り扱っているといえる。

〈③教員の取り組み〉では「II-9」「II-17」が高く、「II-14」「II-16」「II-18」が低かった。以上から、授業は時間通りにおこなわれ、教員は授業をおこなうための十分な知識をもっていることがわかる。しかし、課題の量や難易度は適切なものではなく、学生の反応もそれほど活かされていないようである。また、シラバスは、授業の選択にはそれほど参考にされていないことがわかる。

#### 2) 学部による比較

全ての学部において全カテゴリーの評価は70点以上であり、概ね高い評価を得ていた。カテゴリーに注目すると、〈①受講態度〉〈②授業内容〉では保健科学部の評価が最も高く、〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉では心理学部の評価が最も高かった。全カテゴリーにおいて社会福祉学部の評価は最も低かった。ここから、学部により評価が異なっており、学部ごとに講義に特徴があることがわかる。

#### 3) 学年および学生の性別による比較

全ての学年において全カテゴリーの評価は70点以上であり、概ね高い評価を得ていた。カテゴリーに注目すると、〈①受講態度〉では1年生の評価が最も高く、3年生以上の評価が最も低かった。また、〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉は、3年生以上の評価が最も高く、2年生の評価が最も低かった。このことから、学年によって授業に対する取り組み方が異なっていることがわかる。特に、受講態度は学年が進むにつれて、悪くなっていること

がわかる。また、2年生で全カテゴリーの評価は低下するが3年生以上になると〈①受講態度〉を除く3つのカテゴリーで上昇していることがわかる。

性別について、ほとんど差は見られなかったが、女性の方が全般的に高く評価していた。

#### 4) 科目分類による比較

全ての科目分類において全カテゴリーの評価は70点以上であり、概ね高い評価を得ていた。基礎科目は全カテゴリーにおいて最も低かった。また、語学科目は〈②授業内容〉が低かったが、他のカテゴリーでは最も高かった。〈②授業内容〉では、専門科目が最も高かった。以上から、基礎科目は、他の科目と比較すると低く評価されていることがわかる。また、語学科目や基礎科目は、他の科目よりも〈②授業内容〉が低いため、科目の専門性が学生に伝わっていないといえる。専門科目は内容が充実していることがわかる。

#### 5) 受講者数による比較

全ての受講者数において全カテゴリーの評価は70点以上であり、概ね高い評価を得ていた。回答者数が1～20人、21～50人の科目は評価が高く、51～80人、81人以上の科目は評価が低かった。このことから、受講者数により授業の評価に差があることがわかった。小教室もしくは少人数クラスであるほど、授業の評価は高くなりやすいとされている（間間・菅野, 2005）。また、多人数の授業は、授業として成立しにくいことが指摘されている（鹿嶋, 2005）。本調査の結果は、先行研究の知見を支持する結果であるといえる。

#### 6) 各学部における学科間の比較

項目ごとに見ると、評価に高低はあるものの、どの学科も全体平均と似た傾向を示していた。カテゴリーごとに見ても、ほとんどの学科で全学の傾向と同様に〈①受講態度〉が最も低く、〈④総合評価〉が最も高かった。

カテゴリーごとの評価について、学部ごとに学科間の比較を以下に示す。ただし、文化財学部、心理学部は学科がひとつであるためここでの記載は省略した。

**社会学部**：全カテゴリーにおいて国際社会学科が最も高く、〈②授業内容〉では国際社会学科と同様にビジネスコミュニケーション学科が高かった。〈①受講態度〉〈②授業内容〉では文化財修復国際協力学科が最も低く、〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉はスポーツ社会学科が最も低かった。

**保健科学部**：全カテゴリーにおいて理学療法学科が最も高かった。〈①受講態度〉〈②授業内容〉では作業療法学科が最も低く、〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉では看護学科が最も低かった。

**社会福祉学部**：〈①受講態度〉〈②授業内容〉では子ども福祉学科が最も高く、〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉では福祉ボランティア学科が最も高かった。〈①受講態度〉では福祉ボランティア学科が最も低く、他のカテゴリーでは健康スポーツ福祉学科が最も低かった。

**政策マネジメント学部**：全カテゴリーにおいて知的財産マネジメント学科の方が環境リスクマネジメント学科よりも高かった。

## 2. 2007 年度の授業アンケートの成果と今後の課題

2007 年度の授業アンケートの実施結果をもとに、成果と今後の課題について考察する。

### 1) 2007 年度の授業評価アンケートの成果

今年度の授業評価のために EST を作成し、授業アンケートを実施した。

EST は学部や学科に関係なく、講義形態の全ての授業を対象とすることができる。そのため、EST を用いることで、学部間や学科間において比較検討が可能になった。

EST は、〈①受講態度〉〈②授業内容〉〈③教員の取り組み〉〈④総合評価〉の 4 つのカテゴリーからなる尺度である。教員側の要因を「教員の取り組み」と「授業内容」の 2 つの枠組みから捉えているが、これらは因子分析の結果からも統計的に妥当であることが確認された。したがって、継続した使用が可能な信頼性のある尺度が作成されたといえる。

また、EST の作成とともに、教員へのフィードバックについても改善を図った。フィードバック資料では、対象科目のカテゴリーごとの平均に加え、全学・学科の平均を記載した。また、項目ごとに対象科目と学科の平均点をプロフィールとして示した。これらにより、授業の改善に向けてより具体的な手がかりを教員に提供することが可能になったといえる。

### 2) 今後の課題

#### (1) 実習科目・演習科目の評価について

EST は講義形態の授業を評価する尺度であり、実習や演習形態の授業を評価することはできない。しかし、大学教育において実習や演習は重要な位置を占めるものである。そのため、将来的には実習や演習を適切に評価できる尺度の作成が求められる。

#### (2) 基礎科目・語学科目・多人数授業の評価について

アンケート結果から、基礎科目は全カテゴリーにおいて低く評価され、語学科目は〈②授業内容〉が低くなることが明らかになった。また、多人数の授業は少人数の授業よりも全カテゴリーにおいて低く評価されることが示された。

このように評価が低くなることは、科目の特徴や履修者の多さによる特徴であると考え

られる。語学科目・基礎科目・多人数授業における評価の低下は、教員のスキルや授業の運営の仕方のみには帰属すべきではないことは確認しておく必要がある。

授業評価の目的は、教員が担当授業について振り返りをおこない、授業を改善していくことにある。したがって、語学科目・基礎科目・多人数授業の評価が低いとしても、他の教員や講義との比較が目的ではないため、得られた点数を修正する手続きは必要ないといえる。しかし、仮に、この結果を教員の実績評価につなげるような動きがある場合には、授業の規模や科目分類に応じて、カテゴリーや項目の得点に重みづけをする必要があるといえる。

### (3) 経年的評価について

遠藤（2004）は、期間が経つことで授業評価が変化することを示している。例えば、受講時には評価が低かった授業であっても、卒業論文を作成するさいに役立ち、評価が高くなることもあるだろう。つまり、そのときは役に立たなかったものが、その後生きてくることがある。そのため、受講直後での評価と数年後の評価がどのように変わるかについて経年的に検討することも重要である。

### (4) 客観的指標について

授業評価には客観的な評価と主観的な評価の2つの視点がある。ESTは、学生が主観的に授業を評価するものである。この尺度により、学生の主観的な満足感の把握は可能になったが、学生が授業を通して何を身につけたかは不明である。そのため、学生の到達度を測定する客観的な指標を用意することで、バランスが取れた授業評価が可能になると考えられる。

### (5) 授業改善に向けての取り組みについて

本来、授業アンケートは授業の改善を目的に実施される。しかし、アンケート結果をどのように活かすかについては、全学共通の具体的な指針がなく、教員の自主性に任されているのが現状である。他大学では、授業デザインについてのワークショップを開催したり、授業見学を実施したりする試みをおこなっている。本学においても、授業改善に向けて具体的な指針を検討することが求められる。

### (6) 授業評価の体制について

今年度の授業アンケートの実施から報告までの業務は、自己点検自己評価委員会から委員に委託する形でおこなわれた。そのため、委員会に在籍する一部の委員への負担が、非常に大きなものであった。また、委員は一定の任期で交代するため、長期的な計画に基づく取り組みが難しい状況だといえる。そのため、授業評価についての専門的な部署を作るなど、組織全体として取り組むことが望まれる。

## 引用文献

- 大学基準協会（2005）吉備国際大学に対する加盟判定審査結果ならびに認証評価結果  
URL :<http://kiui.jp/pc/gakugai/kizyunkyoukai/zikotenhokoku/hanteikekka/01sinsakekka-1.pdf>, 2007.12.1アクセス.
- 遠藤健治（2004）学生による授業評価の経年的検討 日本心理学会第 68 回大会発表論文集, 1164.
- 星野真弓・吉村宣彦・津川秀夫（2007）大学における授業評価尺度作成の試み 日本心理学会第 71 回大会発表論文集 1189.
- 伊田勝憲（2001）課題評価尺度作成の試み 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要. 心理発達科学 48, 83-95.
- 文部科学省大学審議会（1998）21 世紀の大学像と今後の改革方策について：競争的環境の中で個性が輝く大学  
URL:[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/12/daigaku/toushin/981001.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/daigaku/toushin/981001.htm), 2007.12.1 アクセス.
- 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室（2006）大学生における教育内容等の改革状況について  
URL:[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/18/06/06060504.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/06/06060504.htm), 2007.12.1 アクセス.
- 聞間理・菅野禎盛（2005）授業評価アンケートデータから見えてくるもの：講義科目に焦点をあてた分析 経営学論集 16, 2, 1-13.
- 鹿嶋研之助（2005）多人数講義型授業の検討と新しいカリキュラム・モデル 国府台経済研究, 16, 3, 123-131.

# 資 料

1. EST 実施マニュアル	1
2. EST 実施要綱	4



## 1. EST 実施マニュアル

2007 度の取り組みをもとに、EST 実施マニュアルを作成した。( ) 内の所要期間は、2007 年度を参考とした。

### 1. 実施科目の選定 (所要期間：2 週間)

授業アンケートの実施に先立ち、対象授業が何名の教員によっておこなわれているか、講義形態の授業かなどを調べる。

- 1) 教員ごとに、調査用紙を作成する。2007 年度に用いた調査用紙を Table 5.1 に示す。

Table 5.1 実施科目の選定のための調査用紙

<p><u>教員名</u>: ○○○○</p> <p>1. それぞれの科目について「記入上の注意」をよく読み、当てはまる数字に○をつけてください。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>記入上の注意</b></p> <p>○授業形態については、科目名に関係なく、<b>該当する数字</b>を選んでください。          例えば、「○○演習」という科目の場合、講義が授業時間の半分以上であれば「1」、半以下であれば「2」を選んでください。</p> <p>○授業形式</p> <p>1. 講義形態 : 教員による講義が授業時間の半分以上          2. 演習形態 : 学生による発表・討議が授業時間の半分以上</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">科目名</th> <th style="width: 25%;">学科</th> <th style="width: 25%;">担当教員</th> <th style="width: 25%;">授業形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>1. 1名</td> <td>1. 講義形態</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2. 2名以上</td> <td>2. 演習形態</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1. 1名</td> <td>3. 実習形態</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2. 2名以上</td> <td>1. 講義形態</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2. 演習形態</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3. 実習形態</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	学科	担当教員	授業形態			1. 1名	1. 講義形態			2. 2名以上	2. 演習形態			1. 1名	3. 実習形態			2. 2名以上	1. 講義形態				2. 演習形態				3. 実習形態
科目名	学科	担当教員	授業形態																												
		1. 1名	1. 講義形態																												
		2. 2名以上	2. 演習形態																												
		1. 1名	3. 実習形態																												
		2. 2名以上	1. 講義形態																												
			2. 演習形態																												
			3. 実習形態																												

- 2) 教務課より、実施科目選定の調査用紙を各教員に配布する。
- 3) 回収は、学科ごとに委員がおこない、教務課に提出する。
- 4) 回収されたものの中から、担当教員の人数が 1 名、授業形態が講義形態である科目を選出する。
- 5) 選手された科目の一覧を作成する。一覧には、科目コード、対象学部、対象学科、科目

名，科目分類，教員名，教員性別，履修者数を記載する。一覧の例を Table 5.2 に示す。

Table 5.2 実施科目一覧の例

コード	対象学部	対象学科	科目名	科目分類	担当教員名	教員性別	履修者数
1	社会	国際	英語 I	語学科目	○△□	女	68
2	社会	ビジ・国際	中国語 I	語学科目	○×□	女	43
3	社会	ビジ・国際	日本語研究Ⅲ	専門科目	△△○	男	67
4	社会・政策	ス社・ビジ・環境・国際・文化	教育原論	教職科目	○×□	女	120
5	社福	子ども	教育社会学	教職科目	△△○	男	23
6	社会	ビジ・国際	社会学	基礎科目	△△○	男	80
7	社会・社福	ス社・ビジ・国際・社福・文化	国際社会学	専門科目	□×○	男	77
8	社会	ス社・ビジ・国際・文化	社会調査法 I	専門科目	□×○	男	59

## 2. 授業アンケート用紙の印刷

- 1) 業者に対象科目の一覧を渡す。
- 2) 業者は，対象科目の部数分を印刷する。

## 3. 授業アンケート実施（所要期間：2週間）

- 1) 教務部は，2で選定された科目に，アンケートが配布する。
- 2) 授業アンケートが配布された教員は，授業終了前に，学生に授業アンケートの実施を依頼する。
- 3) 依頼された学生は，実施要綱を参考に授業アンケートを実施する。
- 4) 授業アンケート終了後，学生は，指定の場所に提出する。

## 4. データの入力（所要期間：2週間）

- 1) 業者に，回収された授業アンケートを渡す。
- 2) 業者は，データ入力をおこなう。
- 3) 入力後，納入する。納入されるデータの例を Table 5.3 に示す。

Table 5.3 納入データ例

コード	学部	学科	科目名	分類	担当教員名	教員性別	履修者数	学年	学生性別	区分	I-1	I-2
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	3	1	1	4	3
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	3	1	1	4	4
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	2	1	1	3	4
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	3	1	1	5	4
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	2	1	1	4	4
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	2	1	1	5	4
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	2	1	1	4	3
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	3	1	2	5	5
1	社会	国際社会	英語 I	1	○△□	2	68	2	2	2	5	5

## 5. 個人へのフィードバック資料の作成（所要期間：1ヶ月）

- 1) 納入されたデータから、欠損値のあるデータを除く。
  - 2) 全学・学部・学科・科目ごとに、平均、標準偏差および平均値の100点換算を、カテゴリごとに算出する。
  - 3) 全学・学部・学科・科目ごとに、各項目の平均および標準偏差を算出する。
  - 4) 科目ごとにフィードバック用紙を作成する。
- \* フィードバックには、学科ごとの履修者数を記載する欄があるため、あらかじめ学科単位の履修者数一覧を作成しておく必要がある。

## 6. 報告書の作成

## 7. フィードバック資料の配布

教務部が、科目の担当教員にフィードバック資料を配布する。

## 2. EST 実施要綱

### [授業アンケート実施手順]

- I. アンケート配布
- II. 記入上の注意  
「アンケートは、ボールペンを使わず、鉛筆やシャープペンを使って記入してください。」
- III. 授業コードを黒板に書く
- IV. 回答開始  
「まず黒板を見てください。黒板の数字をコード欄に記入してください。次に、科目名、性別、学年、区分など必要事項を記入し、回答を始めてください。回答が終わったら、記入ミスや記入もれがないか確認してください。」
- V. アンケート回収  
「回答が終わった方は、前に提出してください。」

#### 注意

- ・授業コードは、アンケートの入っている封筒に記入してあります。
- ・クラスに留学生がいる場合は、質問を読み上げてください。
- ・項目について質問があった場合は、[質問項目の説明]をみて教えてください。

### [質問項目]

- I
  1. 私は、授業によく出席していた
  2. 私は、授業に積極的な態度で取り組んだ
  3. 私は、予習・復習などの自主的な学習をした
- II
  1. 授業で学んだ内容は、専門性の高いものだった
  2. 授業で学んだ内容は、興味や関心をもてるものだった
  3. 授業で学んだ内容は、自分を成長させるものだった
  4. 授業で学んだ内容は、就職や進学に役立つものだった
  5. 授業で学んだ内容は、将来仕事をする上で役立つものだと感じた
  6. 授業で学んだ内容は、他者に誇れるものだった
7. 教員は、授業に対して熱意や意欲があった
8. 教員は、よく準備された授業をおこなっていた
9. 教員は、この科目を担当するに値する経験や知識をもっていた
10. 教員は、授業内容をわかりやすく説明していた
11. 教員は、聞き取りやすい話し方をしていた
12. 教員は、教科書・板書・視聴覚機器などを効果的に使用していた
13. 教員は、学生の理解に合わせた授業をしていた
14. 教員は、学生の反応や意見を活かした授業をしていた
15. 教員は、授業を受けやすい環境をつくっていた
16. 教員は、適切に課題を出していた
17. 教員は、授業時間を守っていた
18. 教員は、授業を受ける上で参考になるシラバスを作っていた

III 総合的に判断して、私はこの授業を高く評価する

### [質問項目の説明]

学生から質問されたとき、以下の各項目の具体例を参考に説明してください。

#### I 1~3は、〈受講態度〉を問うものです。

1. ほとんど休むことなく出席したか
2. 私語をしない、携帯を使わないなど、受講マナーを守ったか
3. 授業で出された課題以外に、わからないことを調べるなどの努力をしたか

#### II 1~6は、〈授業内容〉について学生がどのように思ったかを問うものです。

1. 専門分野について、最新の情報を得ることが出来たと感じたか
2. おもしろい授業だったか/ もっと学びたいと感じたか
3. 人間的に成長する機会を得たと感じたか/ 自分の新たな一面を知ったと感じたか
4. 就職や進学をするときに必要な情報を得ることができたと感じたか
5. 実際、仕事おこなう上で役立つ知識や情報を得ることができたと感じたか
6. 知的な欲求が満たされたか/ 情報や知識を得たことをうれしいと感じたか

#### \* 問4と問5の違い

問4は、就職や進学の準備をするときに役立つそうかを聞いています

問5は、自分が将来仕事に就いたときに役立つ知識を得ることができたかを聞いています

#### 7~18は、〈教員の授業への取り組み〉について学生がどのように思ったかを問うものです。

7. 教員が授業に対して、積極的に取り組んでいると感じたか
8. 授業全体のスケジュールが計画されていたか/ 内容はよくまとまっていたか
9. 教員は授業内容に関する十分な経験、技術、知識を持っていると感じたか
10. ポイントをおさえた説明がされていたか/ 説明が理解しやすかったか
11. はっきりとした声で話していたか/ 声の大きさや速さが適切であったか
12. ビデオやスライド、配布資料などを用いての説明がわかりやすかったか
13. 授業の難易度や進む速さは適切であったか
14. 学生の質問や発言に対応していたか  
/ 一方的に話すのではなく学生の参加を促していたか
15. 教員は学生の私語や遅刻・退室に対して注意をしていたか
16. 宿題の回数、量、難易度は適切であったか
17. 教員は授業の開始や終了時間を守ったか
18. シラバスが履修登録時に役に立ったか

#### III 授業を総合的に判断してどうであったかを問うものです。

この授業は満足できるものだったか

平成 19（2007）年度  
学生による授業アンケート実施報告書

2008 年 2 月 1 日 発行

実施 自己点検・自己評価委員会教育指導部会  
委員長 小田淳子

著者 津川秀夫・大塚道子・妹尾靖晃

発行 吉備国際大学  
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町 8  
TEL0866-22-9454